

司 法 省 文 庫			
		和	書
		政 治 及 法 律 部	門
	九 三	號	
冊 架	函	號	

7 8 9 10^{4m} 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10^{4m} 1 2 3 4 5 6

司法省

号

21527

叔權所藏版

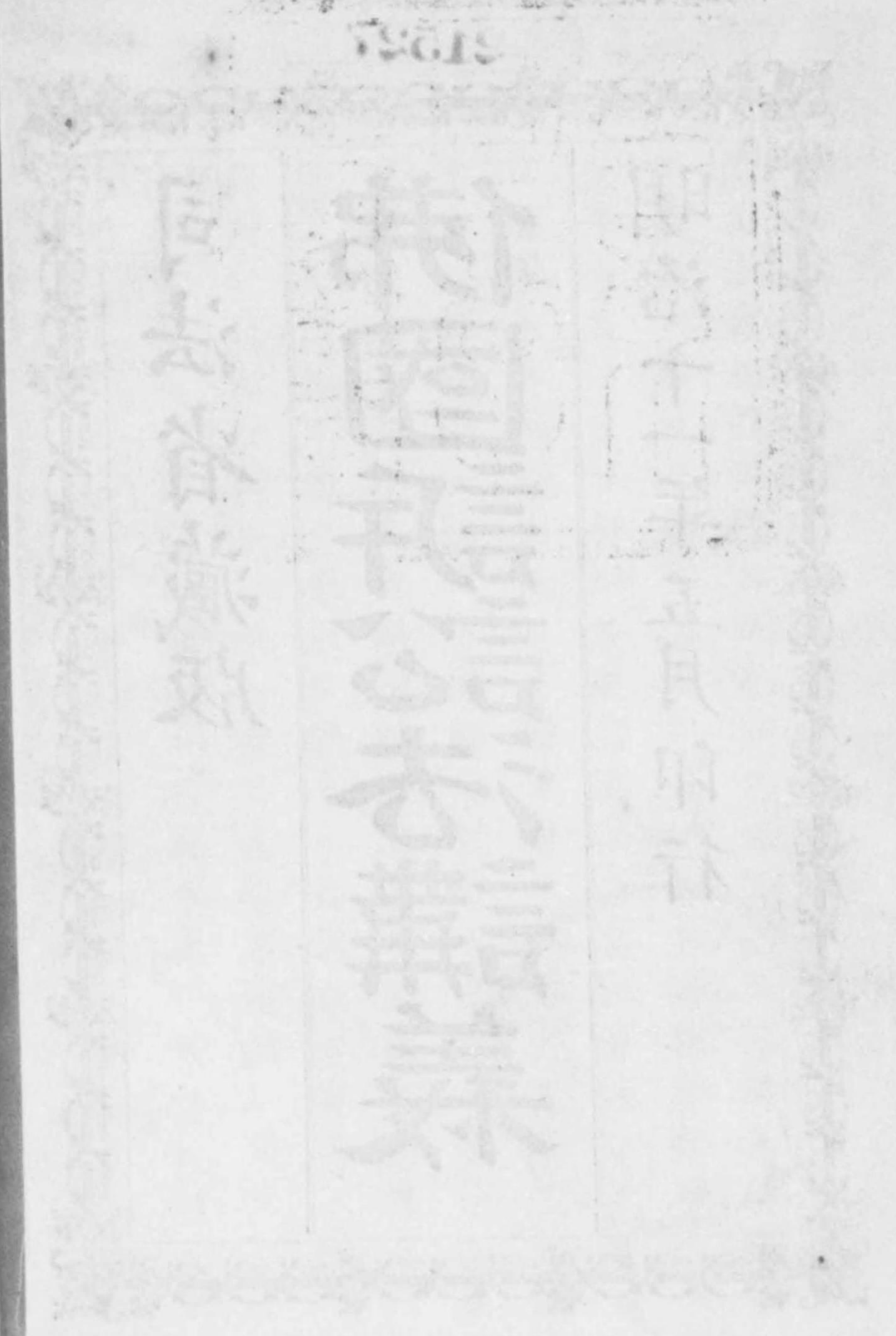
佛國訴訟法講義

明治十一年五月印行



總序

外國法律ノ書佛蘭西五法ヨリ備ハルハ無シ而シテ我皇國今日法律改良ノ時ニ當リ其參考斟酌ニ供ス可キ者又五法ヨリ善キハ無シ然ルニ其書タル文約ニシテ旨傳タ且各法中交互錯綜彼是相待テ發明スル者少ナリカヌス抑立法ノ淵源ハ建國ノ情勢ト舊來ノ習慣ニヨリ制作スル所ニ出ツルト雖モ要スルニ皆天然之道理ニ基カサルナシ是以テ其旨深其義遠讀者遽ニ其要領ヲ得ルニ苦シム故ニ彼國ニ在リ己ニ其解說ヲ難ンシ學士法官註釋說明スル者一ニシテ足ラス况ヤ我國ニ於テ之ヲ傳習譯述スル者以テ至難ト爲ス亦宜ナリ是



以テ嚮ニ本省特ニ佛國學士ヲ招致シ其講說ヲ聞キ其
論辨ヲ經テ大ニ會得スル所アリ前日隔鞞搔痒ノ嘆始
テ麻姑ヲ雇フテ爬セシムルカ如シ當時其講席ニ就キ
之ヲ筆記セシム是レ五法講義ノ書アル所以ナリ然ル
ニ其原本省事務ノ實際ニ於テ需ムル所アリ講說ヲ爲
サシムルニ出ツ故ニ首尾貫徹全篇解釋スルヲ待タス
蓋シ民法ニ在テハ契約ノ部訴訟法ニ在テハ初告裁判
所ノ部ノ如シ其他亦之ニ準ス顧ルニ彼國學士ノ面說
口授ニ係ルヲ以テ之ヲ我國學者傳譯ニ成ルモノニ較
スル其眞ヲ得ル頗ル多シト爲ス今者大木司法卿命シ
テ印行セシム苟シクモ我法官審司タル者此書ヲ熟讀

玩味セハ五法ノ要領ニ於テ亦將ニ別ニ發明了悟ノ益
ヲ得ル所アラントス但此書ノ體隨テ聽キ隨テ記スル
ヲ以テ間々文意ノ重複ヲ免カレサルノミナラス或ハ
恐ル譯字安ナラス講者ノ意ヲ盡ス能ハサルアルヲ然
ルニ今ニシテ之ヲ改潤セハ更ニ恐ル却テ其本義ヲ失
フノ患アラントテ姑ク其舊ニ仍ル讀者宜ク注意スヘ
シ

佛國訴訟法講義

佛國法律博士ポアソナート講義

名村泰藏口譯

第壹號 明治七年
四月十日

第二章 下等裁判所ニ呼出ス事

第五十九條 人權ノ事ニ付テハ被告人其住所ノ裁判所ニ呼出サルヘシ

シ若シ其住所ノ知レサル時ハ寄居スル地ノ裁判所ニ呼出サルヘシ

人權トハ專ラ身分ニ關シタルコトヲ云フニアラス總テノ貸借授與等

ノ義務人ニ對スルモノナリ物ニ對スルモノニアラスソノ目的ノ人

ニアルト物ニアルトノ區別シタル名ナリ原告人ノ住所ニ被告人ヲ

呼出ストキハ被告人ニ於テ多少ノ難儀ヲ蒙リ且ツ種々ノ弊害ヲ生

シソノ事實ノ取調ニモ不都合多シ故ニ被告人ノ住所ニ呼出ストナ

B500
B 3
/

タトヘハ東京人ニテ長崎ノ人ヘ金ヲ貸シタリト訴フモノアランソ
ノ眞偽知ルヘカラサルニ被告人ヲ東京ヘ呼出スニ萬一詐偽ナルト
キハ被告人ニ多少ノ費ヲ掛ルナリ依テ原告人ノ方ヨリ被告人ノ地
ヘ往クコトコナレハ原告人ニ於テ右等ノ詐偽ヲ云フヲ得ス被告人
モ無益ノ害ヲ蒙ルコトナシ故ニ被告人ノ所ニ往クコトヲ原則ト
極メタリ

住所ノ知レサルトアルハ住所ノ定マラサル時トスル方然リ
原被雙方ノ住所隔絶スルカ或ハ故障アリテ原告人自カラ行クヲ得
サルトキハ被告人住所ノ代書人ニ申送り之レニ托シテ訴訟ヲナス
ソノ原告人ハ己レノ住所ニ居テ濟ムナリ
若シ被告人數人アルトキハ原告人ノ擇ミニ從ヒソノ中一人ノ住所ノ

裁判所ニ呼出サルヘシ

被告數人アルトキ數裁判所ニテ裁判セハ各裁判各異アリテ債主ノ
際ニ不都合ヲ生ス故ニ原告人ノ撰ミニテ一ノ被告人ノ所ニ於テス
物權ノ事ニ付テハソノ物件所在ノ地ノ裁判所ニ呼出サル可シ

物權トハ動産不動産ノ物件ニ對シテ云フコトナレトモ此ニハ不動
産ノミチ以テ言ヘリ

タトヘハ土地ヲ己レノ有トスルノ訴或ハソノ入額ヲ己レニ収納セ
ントスル訴等之レナリ又土地侵奪ノコトニ付テソノ地ヲ取返ス訴
ハ即チ物權ナリ

然レモタトヘハ失火ニテ土地ノ經界紛亂シタル時ソノ經界ヲ定ム
ルニ隣地ノ申合セヲ要スルニソノ隣地ノモノ之レヲ承知セサルト
キ之レヲ承知セシムルノ訴ヘハ人權ニ屬ス

四

又甲長崎ニテ乙ニ千坪ノ地ヲ賣タリ乍去ソノ地ハ長崎ノ何ノ處ト定マラサルナリ右ヲ違約シテ渡サ、ルトキ之レヲ渡サシムヘキ訴ヘハ人權ナリ

近時佛蘭西ニ一例アリ巴里ノ人「アルゼリー」ニテ土地ヲ引渡スヘキ契約ヲ爲シタリ然レモ其契約ニ引渡スヘキ土地ヲ確定セス只「アルゼリー」ノ山ノ手ニテ土地千坪ヲ渡スヘシトノコトナリシカ後コソノ人分散トナリ終ニ其義務ヲ行フコト能ハス依テ被告人ノ住所ヘ訴ヘ裁判トナリタリ是亦土地ニ關スルコトナレトモ人權ニ屬スレハナリ

動産ノ物件ニ付テハ何レノ處ニ呼出スヘキヤ此條ニ記スヘキコ之レヲ記セス之レ法律ノ未タ盡サ、ル所ナリ本條ノ下ニ動産ノ物件ハ被告人所在ノ裁判所ニ呼出スコトヲ増補スヘシ

人權ト物權ト相混シタル事ニ付テハソノ物件所在ノ地ノ裁判所又ハ被告人住所ノ裁判所ニ呼出サルヘシ

人權ト物權ト混シタルトハタトヘハ家屋賣渡ノ契約ヲ取極メタル上ハソノ家ヲ現ニ受取ラスト雖モ即日ヨリ買入タルモノ所有主ナリ然ルニ賣リ主引渡スヘキ期日ニソノ家ヲ明ケ渡サ、ルトキノ訴ヘハ人權ナリ又ソノ家屋ヲ渡サシテ自儘ニ使ヒタルニ付其家屋ノ所有ノ權ヲ訴フルハ物權ナリ

右ノ二權ヲ混スルトキハ原告人ノ擇ミニ任カセ物件所在ノ地ニテモ又ハ被告人住所ニテモ呼出シテ差支ナシトス
所有ノ權ハ約定書取換ハシノ時甲ヨリ乙ニ移ルモノトス故ニ物ヲ受取ラストモ買入レタル者其物ノ所有主ナリ然レモ其物ノ定マラサル者ハ約定ノミニテ物ノ所有主ナリト云テ得サルナリ

五

第二號 明治七年四月十五日

○重テ人權物權ノ事ヲ説ク

人權ト物權トチ分ツハ裁判上都合ノ爲メニ設ケタルモノナリ
 總テ義務ニ關スルハ人權ナリソノ義務ハ契約ヨリ生スルモ法律上
 ヨリ生スルモ之レアリ

物權ハ總テ物ニ對シ此物ヲ己レノ物ト爭フ等ヨリ生スルモノナリ
 其目的物ニ在ルユヘ物ノアル所ニ於テ裁判スルナリ
 不動産ニ限リ必スソノ現在ノ土地ニ於テ裁判ス動産ハ身ニ附屬ス
 ルモノトス故ニ被告人ノ裁判所ニ於テス
 人權物權ノ區別ヲナシ又其一ヶ所ノ裁判所ニ定ルコトニ付テハ緊
 要ノコトアリ左ノ如シ

原告人ノ多人數アル時ハ分派ノ場ニ至リ各ソノ望ヲ充ツルコト能
 ハサルモノナリタトヘハ三百萬兩ヲ借シタル者アリ百萬兩ヲ借シ
 タルモノアリ然ルニ數ヶ所ニテ之ヲ裁判スル時ハ一人ハ十ノ七八
 分ヲ取ルヲ得又一人ハ十ノ二三分ヲ得ルヲ能ハス不公平ヲ生ス
 故ニ之ヲ一ヶ所ニテ裁判シ各ソノ義務ノ高ニ循ヒ分派ノ公平ヲ得
 ルヲ要スル所以ナリ

物ノ定マリタル約束ノ時タトヘハ何地ノ何番何號ノ家ト確定セシ
 時ハ則チ物權ニ屬ス故ニ其類ハ裁判權ヲ以テ其物ヲ差押ヘ取揚ル
 ヲ得ル

物ノ定マラサル約束ノ時ハ物ナキカ如シ故ニソノ違約ニ付損害ヲ
 生スルヲアレハ其償ヲ出サシム此類ノ如キハ分散ノ時ニ特權ヲ保
 ツコトナシ

米ヲ人ニ賣ルニ買入人ニテソノ米ニ符號ヲ記シタルノミニテ未ダ買入人受取ラサル間ニ賣主分散トナリタル時ハ即チ買人ニテ之レヲ引取ルヲ得ル分散人ノ財産中ニハ入ラサルナリ又既ニ米ヲ買タリト雖モ其米ニ符號ヲ記セサル中賣リ主分散トナリタル時ハ買入人之レヲ引取ルヲ得ス分散人ノ財産中ニ入りテ分派トナルナリ人權ニテ訴訟起リ物權ノコトニ涉ル共其訴訟ヲ甲ノ裁判所ヨリ乙ノ裁判所ニ移スコトナシ

タトヘハ此地ニテ空米ヲ賣ルモノアリ此地ノ裁判所ニテ取調ヘタルニ何モアルコトナシ却テ彼地ニハ土地モアリ家屋モアリ此時ハ此地ノ裁判所ヨリ言渡シタル書付ヲ原告人彼地へ持參シ使吏ノ手ヲ經テ三十日ノ間ニ渡スコトヲ命ス萬一右三十日間ニ渡サ、ル時ハ彼

地ノ使吏ノ權ヲ以テ取揚ルヲ得ルナリ同上ノ場合ニテ米ヲ渡サ、ル時家屋地所等ヲ渡スコトナル其時ハ證文ノ書替ニテ則チ之レヲ義務ノ更改トス民法千二百七十一條以下見合セ萬一ソノ人分散ニナラントスル時ハ證文ヲ書替へ其義務ノ更改ヲ爲スコトヲ得ス

本文ソノ物件ノ上ニ原告人ノ撰、ミ、ニ、任、セ、ト云コトヲ補フ可シ之レ亦律文ノ足ラサル所ト云

又人權物權相混シタル例ヲ左ニ説ク未ダ丁年ニ至ラサルモノハ人ト契約ヲ立ツルノ權ナシソノ契約ハ廢シテ可ナリ然レモ全ク廢棄ス可カラサルモノアリ其契約ニ付訴訟起ル時物主ハ幼年ノ人ナリ買主ハ契約ス可カラサル人ヨリ買タル故不正ノ所爲トナルソノ時ハ幼者ヨリソノ物ヲ己レノ所有ナリ

ト云ヒ又賣買ス可キノ權ナキ故其物ヲ引渡スヘシト云フ之レ人權
物權相混スル者ナリ

治産ノ禁ヲ受ケタル人及ヒ婚スル婦人皆自主自由ノ權ナキコト亦未
丁人ニ異ナルナシ

第五十九條第三項マテハ呼出シノ正則ナリ此第四項ヨリ以下ハ呼
出シノ變則ナリ

會社ノコトニ付テハソノ會社ノ存續スル時間之レヲ設ケタル地ノ裁判
所ニ呼出サルヘシ

會社ノ事ニ付テハ人權ニカ、ルト雖モ必スソノ會社ノアル地ニ於
テ裁判ス

會社ニ其本社ノ定マラサルモノアリ此時ハソノ社中ノ住所ニ於テ
ス人權ノ正則ニ循フ

又存續スル云々トアリ既ニ存續セサル日ニ至リテハ前條ト同一ナリ
遺物相續ノコトニ付其ノ分派ニ至ル迄ノ時間ソノ相續人等ノ互ニ爲ス
訴訟及ヒ分派ノ前死者ノ債主ヨリ爲シタル訴訟並ニ分派ノ裁判言渡
ノ確定ニ至ル迄ノ時間遺囑ノ贈遺ヲ執行フコトノ爲メノ訴訟ニ付テハ
ソノ遺物相續ヲ爲スヘキ地ノ裁判所ニ呼出サルヘシ

遺物相續ノ事ニ付テハ未ダ分派セサル間ハ死者ノ住所ニ於テス此
レ人權ノ本則ト異ナリ既ニ分派スレハ否ラス

本文ニ分派スル迄ノ時間トアリ相續人幾人モアル時ハ此儘ニテ可
ナリ其一人ノ時ハ差支フル文ナリ然レモ相續人一人ナル時ハ右ノ
時間ヲ待ニ及ハス直チニ其相續人ノ所ニ於テスルナリ

又相續人數人アル時ハ協議セシムル爲メ又後日混亂ノ起ラヌ爲メ
ニ其分派ニ至ル迄ノ時日ヲ延ハシソノ死者ノ地ニ於テ裁判ス

一人ノ時ハ協議ニ及ハス故ニ時間ヲ待タサルナリ
 然レモ善ク此一節ヲ解セサル可カラズ死者他人ヨリ預リ置クモノ
 アル時ハソノ預ケ人ヨリ取返ス爲メノ訴ハ本則ニ循フナリ
 此一節三段ナリ第一他人ヨリ相續人ニ對スル訴訟〔第二死者ノ債主
 ヨリ相續人ニ對スル訴訟〕第三遺囑ノ贈遺ヲ執行フ爲メノ訴訟ナリ
 家資分散ノコトニ付テハ分散人住所ノ裁判所ニ呼出サルヘシ
 家資分散〔フバイー〕トハ商人ノ上ニテ云フ通常人ノ身代ヲ仕舞フハ
 家資分散ト云ハス財産拋棄ト云フテコンフナール〔民法千二百六十
 五條以下見合セ
 商人家資分散ト決スレハ管財人〔サンチツク〕ヲ定メ其者ニテ夫々財
 産ノ處置ヲナス故ニ債主ヨリ管財人ニ掛リ訴訟ス然ル時ハ管財人
 ノ住所ニ呼出スヘキ様ナレモ變則ニテ其分散人ノ所ニ呼出スナリ〕
 右管財人ハ債主ニテ撰ムナリ

分散ヲナスキ一時ニ債主ノ集マルコトハ出來サルナリ故ニ商法裁判
 所ニテ假リノ管財人ヲ申付ケ置キ債主皆集マリタル上債主協議シ
 テ本管財人ヲ立ツ
 常人財産拋棄ハ管財人ヲ立ルコトナシ
 家資分散ハ人ニ金高ヲ拂フコト止メタル以後ヲ云〔商法四百三
 十七條見合
 財産拋棄ハ己レノ所有スル諸般ノ財産ヲ悉ク義務ヲ得ヘキ者ニ任
 カスルコト云〔民法千二百六
 十五條見合
 家資分散ニ付民事ノ關係ニタル訴アル時ハ民事裁判所ニテ之レヲ
 裁判ス
 但シ債主ノ特權書入質ヲ云フ

明治七年
 四月廿日

第五十九條第八項

保證ノ事ニ付テハ主タル訴訟ヲナシタル裁判所ニ呼出サルヘシ

此條ハ甚タ六ヶシキ所ロナリ先ツ保證ノ事柄ヲ説カン

保證トハ甲ト乙ト訴訟ヲナスニ甲ハ乙ニ勝タントスルニ付キ他ノ一人ヘ對シ防禦ヲナス爲メ保證人ニナルヘキヲテ依頼スル意ナリトタトヘハ甲ニテ乙ヨリ金ヲ借ル時ハ債主負債主アリソノ時ニ當リ別ニ保證人アリ後ニ債主ヨリ負債主ニ金ノ返濟ヲ求ムルコトヨリ訴訟トナル如此時ハ負債主ハ必ラス自カラ防クヘシ保證人ヲ頼ミ防クノ理ナシ然ルニ債主ヨリ保證人ニ對シテ債ヲ求ルキニ至リテハ保證人ヨリ負債主ニ對シ防禦ヲ求ムルノ理アリ

債主東京ニアリ保證人モ亦東京ニアリ負債主ハ西京コアリソノ時債主ニテ便利ノ爲メ保證人ヲ相手取りテ訴フルキハ保證人ニテハ

負債主ヲ呼ハサルヲ得ス是ニ於テ負債主ハ保證ノ爲メ東京裁判所ヘ呼出サルヘシ

本則ナレハ原告人ハ負債主ノ西京ニ在ルヲ以テ西京ノ裁判所ニ訴フヘキヲナレモソノ主タル訴訟ハ債主ヨリ保證人ヲ既ニ東京ニ呼出サルヘシ

負債主ヲ訴フルハ本則ナレモ保證人ヲ訴ルモ負債主ヲ訴フルモ債主ノ便利ニマカス

此條ハ債主ノ爲メニ甚タ便利ナリト雖モ又負債ノ爲メニ便利ナル様第百八十一條ニ補足スルナリ

前文ニ云フ如キ訴訟ニ於テ債主ニテ奸計ヲナス爲メニ保證人ヲ訴ヘタルキ負債主ニテ右奸計ヲ覺リ且ソノ證アルキハ負債主ノ住所ノ裁判所ヘ債主ヲ呼出スヲ得ヘシ

トトヘハ西京ノ負債主ハ富人ナリ故ニ保證人ヲ訴フルニ及ハス然ルニ東京ノ保證人ヲ訴フルハ何か奸計アリトス此ノ如キモノハ證アルヲ以テ負債主ノ住所ヘ引付ルヲ得ル

佛國ニ於テハ前ニ此條ヲ置キ後ニ第百八十一條ヲ置キ補足ス目下日本ノ如キハ必ラス負債主ノ住所ヘ訴フルニ於テハ如此心配ナシ二人ニテ同シク借リタルモノアリ債主ニテ甲ノ一人ヲ訴フル時ハ乙ノ一人ハソノ債主ノ撰ミテ訴ヘタル裁判所ヘ出サルヲ得ス又一例ヲ舉ケン甲ニテ乙ノ家ヲ買フ故ニ其家ノ主ト思フ然ルニ丙ノ一人來リテ我レ主ナリト云フテソノ取戻シヲ訴フ之レハ物權ニ付其物件所在ノ裁判所ニ訴フナリソノ時買主一人ニテ勝タハ宜シ若シ一人ニテ勝タサルノ見込アルキハ元トノ賣リ主ヲ其裁判所ニ呼寄セ防禦ヲ爲サシム之レ保證ナリ其時元賣主買主ニ對シ其訴ヘ

ヲ救フヲ得サルキハ裁判所ニテ元價ヲ返スヘシト言渡スヘシ此裁判ニ付テ買人ノ負ケトナリ買ヒタル家ヲ他ノ一人ニ渡スヲナル之レニテ一ト裁判濟ムナリ然ル後其家ノ元價ヲ賣主ヨリ取戻スヲ訴フ此時ハ人權ノ本則ニヨリ賣主住所ノ裁判所ヘ訴フ前文ノ場合ニ於テ買主ニテ賣主ヲ呼ハスシテ訴ヲナス如キハ無用心ノ甚シキナリ萬一其訴負ケタル後賣主ニテ何故我ヲ呼ハサルヤ我レニ證書アリ我ヲ呼ヘハ負ケサルモノナ今ニ至リテハ我レハ關セスト云フキハ此訴訟ハソレ切リニテ濟ムナリ此ノ如キヲハ決シキヲナリ萬一之レアレハ此法ノ如ク裁判ス

問

負債主既ニ借入金ヲ返シタル後其受取書ヲ失フタルキ債主ニテ未タ之ヲ受取ラサル旨ヲ申立更ニ貸金取戻シノ訴ヲ爲スソノ時受取書ナキニヨリ負債主ニテ負ケトナリ一旦裁判濟ミタル上後

日ニ至リ負債主ツノ受取ヲ見出シタルキハ二重ニ返シタル分ハ取戻シハ出來ルヤ

答 既ニ裁判所ニテ裁判ヲ爲シタル上ハ之レヲ取上ケス一旦裁判シタルモノヲ再ヒ取上クル時ハ裁判轉帳シテソノ權ナシトス但一方ノ者其不正ナルコトヲ知ツテ之レヲ返ス時ハ格別ナリ之レヲ自然ノ義務ト云フ

問 日本ニテハ後ニ證ヲ見出シタルキハ幾度ニテモ裁判ヲナスナリソノ得失イカ、

答 左様ニテハ一時假ノ裁判ト云フモノナリ證ノ出ル毎ニ取揚ルコトニテハ裁判ノ止ム時ナシ故ニ佛ニテハ取揚ケス然レモ一旦裁判済タル後更ニ證ヲ出シ裁判取消ヲ願フコトヲ許スコトハ凡十ヶ條アリ四百八十條ヲ前文ノ如キハ十ヶ條ノ内ニ入ラ見合セヘシ

ス

第九項

證書ノ如ク執行フコニ付キ別段住所ヲ擇ミタル時ハ民法第百十一條ニ循ヒ別段擇ミタル住所ノ裁判所又ハ被告人ノ眞ノ住所ノ裁判所ニ呼出サルヘシ

住所ヲ擇ムトハ双方同意ニヨリテ撰ムコトアリ又原告人ノ爲ニ擇ムコトアリ被告人ノ爲メニ擇ムコトアリ此條ニテハ原告人ノ便利ノ爲メニ被告人ノ住所ヲ擇ムコトニ就テ言フ之レ本則ナリ

又變則アリ若シ被告人ノ便利ノ爲メニ擇ムキハ原告人ニテ他ノ裁判所へ訴出スルコト得ス

原告人ノ爲メニ擇ミタルキハ動カスヘカラサルモノトハ爲サス被告人ノ爲メニ擇ミタルモノハ動カス可カラサルモノトス

又原告被告雙方ノ爲メ何レノ便利ナルヤ契約書ノ文意不分明ナル
キハ必ラス被告人便利ノ方ニ擇フヘシ之レ法律審明ノ本意ナリ
民
千百六十
二條見合

第四號 明治七年四月廿五日

第六十條 裁判所ニ管シタル官吏代書師使吏等裁判所費用ノ償戻ヲ得
ントスル時ハ以前ソノ費用ノ生シタル裁判所ニ之レヲ訴出スヘシ
之レ第五十九條ノツ、キコテ本則ニ違ヒタル一則ヲ舉クルナリ
裁判所ニ管シタル官吏トハ使吏代書人ソノ外書記官モ此中ニアリ
但シ代言人ハ關セス
代書人ハ重ニ原告人トナルソノ譯ハ頼マレタル節入費ヲ請取置ク
ト雖モ多クハ不足スルコトアル故ナリ故ニ使吏代書師等ノ原告人

トナル方ヨリ説クナリ
通例ナレハ即チ被告人ヲソノ住所ノ裁判所ヘ呼出スヘキナレモ之
レハソノ費用ノ生シタル裁判所ヘ呼出ス即チ變則ナリ
然レモ能ク注意スヘシ人權ニ付テノ訴訟ハ必ス被告人ノ裁判所ヘ
訴フ被告人ノ裁判所ハ則チ費用ノ生シタル裁判所ナレハ自カラ正
則ニ循フ譯ナリ若シ物權ニ付キタル訴訟ナレハ則チ本條ノ規則ニ
循フ即チ變則ナリ
又代書師等ノ被告人ニナルキチ云ハン即チ訴訟入費ヲ取リスギタ
ルキナリ
代書師ハ裁判所ノ權限アリテ他ニ行クコト能ハス故ニ代書師被告
人ニナルキハ即チソノ奉仕ノ裁判所ニ呼出サル、ナリ何トナレハ
奉仕ノ裁判所ハ即チ本人ノ住所ニテ費用ノ生シタル裁判所ニ訴フ

ルコトナレハ之レ即チ正則ナリ
 ソノ裁判所へ訴ルノ故ハソノ訴訟事件ヲ取扱ヒテ能ク其事柄ノ分
 明ナレハナリ
 若シ代書師免職シテ他ニ住所ヲ占ムル後訴訟ノ起ルキハ即チ以前
 奉仕ノ裁判所へ呼出タサル、ナリ
 若シソノ代書師死去セシ後訴訟起リタル節ソノ子孫遺物相續分派
 ノ濟ミタルキハ正則ナレハソノ子孫ノ各所ニ住スル裁判所へ訴訟
 スヘキナレトモ代書師ニ付キタル訴訟ユヘ即チソノ父ノ奉仕ノ地即
 チ裁判費用ノ生シタル裁判所へ訴フルナリ
 此ノ如ク變則多ケレトモソノ變則中正則ノコトモ亦多シ
 第一裁判費用ノ生シタル裁判所ニ訴フル所以ハソノ道理ヲ能ク知
 了シ居ルユヘソノ裁判所へ訴フルコトナリ

代書師謝金目錄ノ常制アリト雖モ別段六ケシキ訴訟ナレハ幾分ノ
 謝金ヲ増シ與ヘルコトアリ此等モ此裁判所ニテ能クソノ事柄ヲ知リ
 居ル故ナリ併シ此ノ理ハ拙劣ト思フナリ何トナレハ以前ノ裁判官
 ニシテ能クソノ顛末ヲ知リタルモノ、調ヘナレハ宜シケレトモ必ラ
 ス前ノ掛リノ裁判官トハ定メ難シ殊ニ巴里ノ如キハ別ニ裁判費用
 等ノ事件ノミチ取調フル爲メノ裁判官アレハナリ
 一局ニテ成レル所ノ裁判所ナレハ我カ言ノ如キノミナラサルモノ
 モアルヘシト雖モ裁判官ハ昇進シテ各所へ轉シ又退藏スルモノア
 レハナリ
 又年月ヲスキテ訴フルニ前ノ掛リ裁判官ハ在職スルヤ否ラスヤ知
 ルヘカラス
 タトヒ此ノ如キチ訴フルトモ訴人ノ云フコト直ニ聽クコトニアラ

スツノ一件書類ヲ以テ其費用ノ額ヲ定ムルコトユヘ何レノ處ニ訴出スルヒ宜シキニアラスヤ

故ニ前ノ掛リ裁判所ヘ訴フルノ説ハ立クサルコトナリ

否ラス若シ代書師等不正ノコトヲナスキハソノ裁判官ニ於テハ督責ノ權アリ又免職ヲモナスノ權アリ故ニ其裁判所ヘ訴フル譯ナリ

然リト雖ヒソノ代書師等ノ免職又ハ死去スルコトアレハ罰スルコトハ出來サルナリ故ニ以上道理ト云ヒタルモノ皆不道理ナリ

因テ考フルニソノ謝金ヲ取過キタル分ハ何レノ裁判所ニテモ取戻スコトハ出來ルナリ故ニ本條中償却ヲ得ント欲スルトキハ下ヘソノ職務ヲ行フノ間ノ一語ヲ加ヘサルヘカラス

此條ハ立法官ニテ代書師等ノ弊害ヲ矯ムル爲メニ立タルモノナレ

ヒ其免職又ハ死去等ノ節ハナスヘカラサルニ至レリ

餘論

此條ハ專ラ代書師等ノ被告人トナルキノ爲メニ設ケタリ

元來法律ハ正則ニ依ルヲ主トス變則ハ少キ方宜シ

代書師ノ原告人トナルトキハ必ラス變則トナル

巴里ニテハ此ノ如キ訴訟ノ爲メニ別局ニ立ツルハ古ヘ此類甚タ多シ即今ハ代書師會社アリテ大抵ハ右ノ會社ニテ調ヘ濟ミトナルユヘニ甚タ少ナシ

昨年珍ラシキ訴訟アリ代書師ニテ八千「フランク」ノ謝金ヲ取ラントセシコトアリ自分教ニモ相談アリタリ頼ミタル人ハ四千「フランク」ヲ與ヘント云ヒタリ然ルニ會社並ニ裁判官ナトノ見込ニテ六千「フランク」ヲ遺ルコトナレリ

元來謝金目錄定制ノ外ニ別段ノ謝禮金ヲ遺ラサルヘカラス若シ常

例ノ外ニ遺ラスト云トキハ裁判官ニテ適宜ニ謝禮ヲ遺ルヘシト言
渡スナリ右ハ夫々入費又ハ時間ヲモ費ヤス故ナリ然レモ弊アリ良
法ニアラス

之レニ反シテ代言人ハ自ラ謝金ヲ求ムルヲ得ス頼ミタル人ノ贈
與スルヲ以テ足レリトスルノ外ナシ故ニ其謝金多クテモ辭セス又
贈與セサルトモ訴フルヲ得ス

代言人ハ訴訟ニ付キ頼ムモノ、本心ヨリ贈ルモノハ請ルコトヲ得
ヘシト雖モ謝金何程出スヘシト預シメ約束スルコトハ禁スルナリ
別段ノ謝禮ハ使吏ニハ贈ルニ及ハス但シ過分ニ入費ヲ取り居ル
アレハ訴訟トナルナリ

事ニ寄り別段力ヲ盡スヲアリソノキハ別段ノ謝禮ノアルコトモア
リ

代言人ヲ頼ミタリトテ贈ルヘキ金ナキモ何程贈ルモヘト證書ヲ出
スコトアリ後ニ右ノ金ヲ贈ラストモ其證書ヲ以テ訴フルコト能ハス
本條外ニ變則トナルヲ更ニ述ヘントス

民生證書ニ有心又ハ過誤ニテ誤字書損等アルヲアリソノ取調ノコ
トヲ訴フルニハ變則トナルナリ其訴ハ我子タルヲ認ムルカ又ハ夫
婦離縁等ノ身分ニ關スルノ訴トハ異ナリ之レ全ク證書ノ誤リノミ
ヲ訴フルキノコトナリ

右ハ人ニ對スル訴ニアラス書類ニ對スルノ訴ナリ
民生證書ノ誤リニ付テハ自カラ言ヒ誤マリシモ知ルヘカラス故ニ
此ノ如キ訟ハ被告人アルヲナシ

右ハ訴ヘニハ呼出狀ナシ使吏ノ取次ニテ裁判所ヘ願書ヲ出ス之レ
ヲ檢事ニ廻ハスソノ時始メテ檢事ハ被告人トナルナリ

此ノ訴訟ハ何レノ裁判所へ差出スヘキヤノ法律ニ記載セスト雖モ
 最初民生證書ヲ記載セシ裁判所ニ差出スコトナリ
 通常至急吟味ヲ乞フ時モ願書ヲ出スナリソノ時ハ裁判所長ヨリ許
 諾返書ヲ出ス民生證書ノ願書ニ付テハ返書ヲ出スコトナシ何トナ
 レハソノ事柄ヲ必ス取調サルヲ得サレハナリ
 右ニ付テ道理アリ通常至急吟味ハ許スト許サ、ルトノ裁判官ソノ
 緩急ヲ見計フコトナリ此民生證書取調ノ願ニ於テハ即チ裁判ヲ願
 フナリ之レヲ取揚ケサルハ裁判ヲ拒ムニ屬ス
 民法第九十九條ニハ唯ソノ所轄ノ裁判所ト記載セリ夫レニテハ分
 明ナラス必ラスソノ書類ノアル裁判所へ訴出ツヘシト改正スヘシ
 事柄ニヨリ親類等ニ被告人ノアルコトモアリ民法第百條ヲ見合ス
 へシ

ソノ被告人アリト雖モ被告人ノ裁判所へハ出テス

第六十一條 呼出狀ニハ左件ヲ記スヘシ

第一年月日原告人ノ姓名職業住所ソノモノニ代ルヘキ代書師ヲ任シ

タル事及ヒ原告人ソノ代書師ノ家ニ別段住所ヲ擇ミタル事

但シ代書師ノ家ニ別段住所ヲ擇ミタル事ナキ時ハソノ旨ヲ記スヘシ

呼出狀ニ年月日ヲ記スト雖モ何曜日トハ記セス

何ノタメニ日ヲ記スト言ヘハ日ヲ記セサレハ呼出狀ノ日限分明ナ

ラス右ハ幾日ノ時間ニ裁判所ニ出ル云々ノコトアルユヘナリ

禮式ノ日ハ勿論日曜日ニハ呼出狀ヲ出スコトヲ得ス但シ至急ノ事

ニ付テハ願書ヲ出シ許シテ受クヘシ第六十二條見合

使吏ノ呼出狀ヲ書ク時何月何日何某ノ願ニ依テト記ス被告人一見

シテ原告人何某ノ呼出ニテ何日ニ裁判所ニ出ツルコトヲ承知スル

ナリ

佛ノ法ニテ代書師ナシニハ訴フルコトヲ得ス故ニ代書師ハ何某ト記ス

此呼出狀ヲ遣レハ被告人ヨリ返事ヲナスニ呼出狀ニ別段住所ヲ擇ミタルコトヲ書セサルハ原告人ノ本住所ノ代書師ノ宅ニ送ル

本住所へ往復スルキハ遠隔ノ地等ハ不便利ナリ故ニ右等ハ別段ノ地ノ代書師ノ家ニ別段住所ヲ擇ムコトナリ

然レモ原告人ニテ必ラスソノ家ニ寓スルコトアラス
本文住所ヲ擇ムコトハ代書人某ノ家ニ住居シタル旨ヲ記載スルコトナリ

但書ハ代書人ノ家ノ外ニ住所ヲ擇ミタルキ何區何某ノ家ニ住所ヲ定メタル旨ヲ記載スルコトナリ

第五號 明治七年四月三十日

前會第六十一條ノ第一住所ヲ擇フ事トハ

代書人某ノ家ニ住居シタル旨ヲ書載スルコトナリ

但書ハ代書人ノ家ノ外ニ住所ヲ擇ミタルキ何區何某ノ家ニ住所ヲ定メタル旨ヲ記載スル等ナリ

第二 呼出狀ヲ送達スル使吏ノ姓名、住居、授任狀、被告人ノ姓名、住居、并

ニ呼出狀ノ副本ヲ別ニ受取ルヘキ者アル時ハ、其者ノ姓名ヲ記スヘシ、
前項ニ原告人ノコトヲ記スノミニテハ呼出ノ効ナシ依テ此項ニ使吏

ノコトヲ記シ又被告人ノコトヲ記シ又其受取人ノコトヲ記シテ始テソノ効ヲ生スルナリ

被告人ノ姓名云々右ハ知ルヲ得ヘキニ於テハ姓名トモニ記載スト

雖_レ姓ノミニテモ足_レリトス職業等記スルコ及ハス
 別ニ受取ルヘキ云々呼出狀ハナルヘキ丈ケ本人ニ渡スヘキナレ
 本_レ本人ナキ時ハ本文ノ通り親族從者近隣ノ者ニ渡シ置クコトヲ得
 ルナリ第六十八條見合
 本人ニ呼出狀ヲ渡スコトハ必スソノ家ニ於テスルコ及ハス途中ト
 雖_レ之_レヲ渡シテ苦シカラス
 然_レ裁判所ニ在ルキ又ハ議院ニ出席ノ時又ハ寺院ニテ説教中等
 公禮儀式ノ場ニテハ右狀ヲ渡スコトナシ
 其公禮儀式中ニ右狀ヲ渡サ、ル譯ハ二説アリ一ニハ右ノ狀ヲ渡ス
 タメニ傍人ノ驚駭ヲ醸シ滿坐ノ妨害ヲ爲セハナリ
 二ニハ右等ノ節受取ルモノハ讀ムコトヲモ出來ス直チニ懷中ニテ
 遂ニ忘却スルニ至ルコトアレハナリ

使吏ソノ家ニ行キテモ本人不在ナル時ハ其親族又ハ僕婢ニテモ居
 合セタルモノニ渡置_テ得ル
 右ノ場合ニ於テ法律上ニテ丁幼ヲ論スルコトナシト雖幼者ニハ渡
 置クコトヲ爲サス若シ幼者ニ渡スコトアレハソノ使吏ニ罰アリ
 ソノ事ヲ辨スヘキ程ノモノナレハ婦女子ニテモ之_レヲ渡シテ差支
 ナシ
 右親族僕婢ニ渡シタルトキハ使吏ヨリ其受取ヲ請ハス又其親族僕
 婢モ受取ノ印ヲ押スニ及ハス又被告人自カラ受取タル_レ受取書ヲ
 出スニ及ハス但シ親族僕婢ノ受取リタル時ハ本文ノ通り使吏自ラ
 其呼出狀ノ正副本ニソノモノ、姓名ヲ記入スルナリ
 原來使吏ハ奉職ノ始メ誓チナシタル官吏ニテ右等職務ノ取扱上ニ
 於テ詐偽ヲナサ、ルモノトス故ニ受取ノ證ヲ他人ニ請ハストモ自

身ノ記入ニテ十分ノ證アリトス若シソノ書面ニ詐偽ヲ爲シタル時
 他人ヨリ訴へ出テ其事實詐偽ノ證出ル迄ハ眞正ノ者トス其果シテ
 詐偽ニ極マルキハ勿論其嚴罰ヲ受クルコトナリ
 若シ受取リタル者親屬婢僕同居ノ者ニテ其狀ヲ紛失セシムルトキ
 ハ使吏ノ罪ニアラス被告人ノ家事不取締ニ歸スルナリ
 被告人其呼出ヲ知ラスシテ裁判所ニ出席セサル時ハ欠席裁判トナ
 ル然レモ其裁判ニ不服ナル時ハ右行違フ故ニ因リ故障申立ルコトヲ
 得ル故ニ補ヒノ出來サルモノトス
 若シ呼出狀ヲ渡スニソノ者ヨリ受取ヲ請フテ始テ之レヲ證トナス
 キハ必スシモ使吏ノ職掌ヲ待タスシテ可ナリ然レモ其狀ヲ持行き
 タルキ被告人ノ處ニ誰レモ居合セサルコトアリ或ハ之レヲ避ケテ故
 ラニ不在スルコトアリ然ル時ハ何時マテモ裁判ヲ得ル能ハス原告人

ニ於テ迷惑少カラス
 又爰ニ一説アリ別段賃錢ヲ高クシ郵便ニ托シ本人ニ手渡シテ他人
 ニ渡サヌ法アリ此ノ呼出狀モ此ノ取扱ヒニナシタラハ然ラント然
 レ亦不都合アリ被告人ソノ呼出狀ヲ得テ裁判所ニ出サルモノアリ
 裁判所ニテ之ヲ詰問スルニ書狀ヲ得タルハ呼出狀ニアラス他ヨリ
 金ヲ送リタルナリ請待ヲ受ケタルナリト言ヒ紛ラスコトアリテ誰モ
 其書ヲ検査シタルモノニ非ラサレハ其眞偽ヲ區別スル能ハス甚ク
 困難ヲ生ス
 故ニ一種ノ權アルモノニテ擔當シ過チアレハ必ス罰ヲ受ルモノナ
 カル可カラス之即チ使吏ヲ置ク所以ナリ
 又被告人及ヒ一家不在ノ時ハ必ス接近ノ隣人ニ渡シ置クコトヲ得ル
 其近隣ト云フハ樓上ヲ始メ四隣ヲ近隣ト云フニ階家アルキハ下タ

ニ住スルモノヲ呼出スニ樓上ハ尤モ近隣ナリ
 其近隣ノ人受取リタル時ハ其使吏其近隨ノ者ヘ責チ歸スルタメニ
 其受取ノ證アルヲ要ス詳ニ第六十八條ニ見ヘタリ
 法律ニ於テハ一軒ヲ隔テタル家ニ渡ス可カラスト云ハサレ共使吏
 ニテ其隔リタル家ニハ之レヲ渡サス
 又近隣ト雖モ醉人又ハ平生不行跡ニテ頼ル可カラサルモノヘハ之
 レヲ渡スヲナシ
 頼ルヘキ人ニ之レヲ渡スルハソノ者正本ニソノ姓名ヲ手署スルナ
 リ

若シ之レニ姓名ヲ手署スルヲ得ヌ又之レヲ拒ム時ハ使吏邑長副
 邑長ニ渡シ其ノ檢印ヲ受クルナリ第六十八條ニ詳カナリ

然レモ第六十九條第八項ノ場合佛蘭西國內ニ分明ナル住所アラサ

ル者ヲ呼出ス時ハ此例ヲ用フヘカラス
 其時ハ同項ニ記載シタル通りソノ訴チナシタル裁判所ノ門扉ニ貼
 付スルナリ

第三 訴訟ノ目的及ヒ訴訟チナス憑據ノ簡略ナル辨明

訴訟トナル可キ目的何等ノ事ト云フチ記ス不動産取戻シ訴ナラハ
 取戻ス所ノ目的又所有ノ權ノ訴ナラハ所有ノ權アル目的チ巨細ニ
 記スヘシ

右訴訟ニ付此ノコトハ如何ト問フニアラス此コト如何處分スヘシト
 申遣スナリ

又唯金ヲ貸シタルトハカリニテハ其事分明ナラス何ヲ賣リタル金
 トカ又ハ家賃ノ滞トチ云フ其緣由チ記ス

又其私ノ證書アル時ハ其證書證據トナスヘキ旨チ記スヘシ萬一證

據トナルヘキ私ノ文書ナキ時ハ人ヲ以テ證トナスコトヲ記スヘシ
 公正ノ證書ハ此等ノ辨解ヲ用ヒストモ十分ナリ
 右等ノコトヲ記載スル所以ハ被告人ニテ之レヲ一見シテソノ訴訟ノ
 相當ト不相當トヲ認メテ其覺悟ヲナス爲メナリ
 不動産アルカ物件所在ノ地名ヲ記シ小名アレハ其小名ヲモ記ス可
 シ
 右ニテモ不足ナリ其隣地ヲモ記ス
 町名番號アレハ亦之レヲ記ス時トシテハ此ノ如ク詳細ナルニ及ハ
 ス其一團ヲナシタル不動産ノ字アルノ類ナリ譬ヘハ上野淺草ト云
 フカ如シ第六十條見合
 右ノ通り記シ置クハ被告人ニ疑ヲ生セサラシムル爲メナリ
 此項三段ト區分シ一ニハ其事物ノ目的ニハ其緣由次第三ニハ其

確實ナル證據ナリ

第四 訴訟ヲ審判スヘキ裁判所及ヒ其裁判所ニ出席スヘキ猶豫ノ期
 限

物權ナレハ其物件所在ノ地ノ裁判所ヲ記シ又被告人數人アル時又
 會所アルノ場所定マラサル時等ハ其會社中一人ノ住所ノ裁判所ニ
 出席スヘキコトヲ定メ記スナリ
 ソノ裁判所々在ノ地名ヲ記入スルナリ
 右ハ訴訟ニ慣レサルモノモアルユヘニ念ヲ入ル、ナリ
 猶豫ノ期限トハタトヘハ裁判所近傍ニ住スルノ人ヲ呼出スニモ四
 月三十日ニ呼出狀ヲ出スナラハ中間八日ノ猶豫ヲナシ來ル五月九
 日出席スヘキ旨ヲ記ス
 法律ニ定メタルナト、書クヘカラス法律ハ人民一般ニ知ルト看倣

シアレヒ中々全國人民皆能ク知ルモノニアラス
 右ノ數ヶ條ハ原告人ニテ取調へ申述タル上使吏コテ呼出狀ニ記入
 スルナリ同區内ト雖ヒ距離遠近ノ違ヒニテ日限ノ違ヒアリ
 十[メリヤメートル]毎ニ二日ノ猶豫ヲ與フ物權ノ時ハ猶大切ナリ各
 地ノ距離ヲ知ラサルモノ多シ
 又被告人多キ時ハ日數ヲ費スナリソノ猶豫ノ原則ハ第七十二條ニ
 アリ佛蘭西國內ニ住居スル者ニ付テハ總テ八日ノ猶豫アリ里程遠
 キ時ハ五[メリヤメートル]毎ニ別ニ一日ヲ増加ス
 八日トハ中間八日コテ呼出狀到着ノ日ト裁判所へ出ル日トハ除イ
 テ八日ノ内ニ算入セサルナリ
 祭日ニ當ル日ハ呼出狀ヲ出サス又裁判所へモ出テス
 又右ノ八日目休日ニ當ル時ハ其翌日ニ呼出スコナリ若シ其祭日八

日中ニアルモノハ期限内ニ算入スルナリ
 右ノ八日通常ノ本則ナリ至急ノ節ハ原告人其期限ヲ縮メテ呼出ス
 コテ願フヲ得ル

原告人ハ何レノ時モ至急ナルコトヲ欲セサルナシ然レヒ裁判官ニ於
 テソノ事柄ノ急ニスヘキト否ストヲ見計ラヒソノ願ヲ許スコアリ
 許サ、ルコアリ

此願書ヲ差出スコトハ裁判所ニ限ルコトニアラス[裁判官ノ宿所へ至リ
 願フモ可ナリソノ時ハソノ宿所ニテ之ヲ許スコアリ]第千四十條
 ナ見合スヘシ

右諸件ヲ記セサル時ハ其呼出狀ノ効ナカルヘシ

此六十一條ノ内一ヶ條ニテモ欠ケタルコトアレハ呼出ノ効ナシ
 若シ使吏ノ誤ツテ記シタルキハ書直ス計リコテ被告人ノ損トナル

トナキナリ

其誤書シタルキノ入費ハ使吏己レニ擔當スヘシ第千三十一條見合

裁判ニ取掛ル時ハ必ス裁判官ニテ其呼出狀ヲ檢査スルナリ

右ノ効ナキ呼出狀ニ付被告人ノ出席セサル時裁判官ニテ其本書ヲ

檢シテ其誤アルヲ知レハ裁判ヲナサ、ルナリ

若シ裁判官ニテ心付カス欠席裁判ヲナスコアリテ後ニ被告人ヨリ

故障ヲ申立ルキハソノ裁判入費ハ一切使吏ヨリ出スナリ

再度ノ裁判ニ被告人ノ負ケトナリタルトモ初メノ欠席裁判ノ入費

ハ使吏ヨリ出スコナリ

右誤書等ノ場合ニ付大切ナル二件アリ

裁判官呼出狀ヲ檢シ欠誤アル時裁判ヲナサ、ルハ其裁判ヲ拒ムニ

取掛ルコ能ハスト云フ意ナリ之レソノ一ナリ

又呼出狀ノ不都合ハ大抵使吏ノ過チニアリソノ罰ハ八フランク位

ノ罰金ニテ濟ムコアレ共事柄ニヨリ時ニヨリテハソノ償ヲナス爲

メニ百萬フランクノ出金ニ及フコアリ之レカ爲メニソノ株式ヲ失

ヒソノ身代ヲ拋棄シテモ足ラサルニ至ルコアリ之レソノ二ナリ

譬ヘハ「コレスクリプシヨン」ノ期將ニ盡ントスル頃原告人ヨリ訴ヘ

タルモノヲ使吏ニテソノ期限ヲ怠リテ呼出狀ヲ出サ、ル如キノ類

原告人ノ損失莫大ナルヨリソノ責使吏ニ歸シテ此ニ及フナリ

公禮儀式等ノ節ニ呼出狀ヲ送達スルハ全ク効ナキニハアラス使吏

ニテ五フランクヨリ百フランクマテノ罰金ヲ言渡サル、ナリ

使吏ハ巴里ノ下等裁判所中ニアルモノヲ合セテ六十人トス當時ハ

ソノ員ヲ増スモ計リ難シ但シ區裁判所ノ使吏ハ此中ニ算入セス法

律ニ効ナシト記セサル分ハソノ呼出狀ニ於テ効ナシトセスソノ過
チハ使吏ソノ責ニ任シ罰ヲ受クルナリ使吏ソレ慎マサルヘケンヤ
故ニ日本ニ於テ此使吏ヲ置クキハ温厚篤實且才アリ家資富有ノモ
ノヲ擇ムヘシ
佛ニテ使吏ハ身元金ヲ大藏省ニ預ケシ上免許狀ヲ得然ル後ニアラ
サレハ使吏務ヲナスコトヲ得ス之レナリ

第六號 明治七年
五月五日

第六十二條 使吏ヲシテ呼出狀ヲ送達セシムル謝金ハ一日分餘ノ額
ヲ拂フヘカラス

使吏呼出狀ヲ送達スルニソノ裁判所々在ノ「アルロンギスマン」中ノ
遠キ所マテ行クコトアリソノ時ニテモソノ送達ノ旅費ハ一日分ノ外

之レヲ拂フコトナシ
佛ニテ以前ハ二日モカ、ルコトアレ共近時ハ往來ノ便大ニ開ケタル
ニヨリ二日モカ、ルコトナシ假令二日カ、ルコトアルトモ一日分ヨリ
外ソノ旅費ヲ拂フコトナシ
裁判所ヨリ被告人ノ住所マテ五キロメートル迄ハ一錢モソノ旅費
ヲ拂フコトナシ

五キロメートルヨリ十キロメートル迄ハ四フランクヲ拂フ
十キロメートル以上ハ五キロメートル毎ニ二フランクヲ増ス
増シテ二十フランク迄ニ止マル之レ即チ一日分ナリ 二十フランク
「トール」
ニ當ル

若シ二日モカ、ル時ハ使吏自費ニテ之レヲ辨ス佛ニテハ往來ノ便
アルユヘソノ旅費二十フランクニ止マルトモ使吏ノ損トナルコトナ

シ其近キ處ニテハ隨分羨餘モ之レアルユヘ自ラ乘除スルナリ
右ハ裁判入費目錄中ニ詳カナリ

第六十三條 裁判所ノ上席人ヨリ允許ヲ得サレハ祭日ニ呼出狀ヲ送
達ス可カラズ

祭日ニ呼出狀ヲ出スニ効ナキニアラズ使吏ニ過チアレハソノ責ト
ナルコト前ニ説キタリ

第六十四條 物權ノミニ管シタル訴訟又ハ人權ト物權ト相混シタル
事ニ付テノ訴訟ノ時ハ呼出狀ニ不動産ノ種類ソノ所在ノ邑ノ名及ヒ
知ルヲ得ヘキニ於テハ其邑中不動産所在ノ部分并ニソノ不動産ニ隣
レル地ノ中少ナクトモ二ヶ所ヲ記ス可シ但シ一團ヲ爲シタル不動産ニ
管シタル時ハソノ名トソノ所在ノ地ヲ記スルヲノミテ以テ足レリト
ス若シ此等ノ事ヲ記セサル時ハソノ呼出狀ヲ取消ス可シ

此條土地ヲ記スルコトハ第六十一條ノ第三ノ下ニ説キタリ故ニ此ニ
贅セズ

第六十五條 此條勸解ノコトアルニ付先ツ勸解ノ概略ヲ説ク
千七百九十年代佛蘭西ノ大變革ヨリ蘭英ニ倣ヒ此勸解ノ法ヲ用ヒ
タリ

此時ヨリ英ニ行ハル、陪審ヲ用フ
佛ニテハ何レノ國ヲ論セス美法アレハ取テ用フルノ説アリ
治安裁判官ニテ必ラス相争フ雙方ヲ呼寄セ裁判所ノ中ニアル自分
ノ室又ハ自分ノ宿所ニテ通常ノ衣服ニテ父子ニ教フル如ク勸解
ス此時ハ裁判官ト云ハス勸解人ト云フ又其場所ハ裁判所ト云ハス
勸解所ト云フ
勸解ハ人權物權トモ必ス被告人住所ノ治安裁判官之レヲナス動産

不動産等ノ別ヲ立ツルコトナシ
 ソノ住所ニテ勸解スルハ平生ソノ原告被告ノ一方ノ者ヲ能ク知ル
 故ニ勸解爲シ易キヲ以テナリ
 ソノ事柄ニ付勸解ヲ受クルニ及ハサルモノアレヒ大抵必ス勸解ヲ
 受ルコトナリ
 タトヘハ甲ト乙ト訴ヲナスニ丙ヨリ故障ヲナスソノ丙ハ新タナル
 人ナレヒ之レカ爲メ勸解ヲナスコトナシ何トナレハ甲乙ハ既ニ勸解
 出来スシテ訴訟ニナリタルニ今又丙ニ勸解ヲナス共益ナシ徒ラニ
 時間ヲ費ヤスノミナリ
 又訴訟中新ニ償ヲ申立タルトモ主タル訴訟勸解スヘカラサレハソ
 ノ償ニ付勸解スルコトナキナリ
 右訴訟ニ付保證人ソノ訴ヘニ關スルコトアルトモ此亦勸解ヲ爲サ、

ルナリ

九四
 故ニ一旦主タル訴訟ヲ始メタル上ハ勸解セサルコトナリ第四十八條
 見合主タル訴訟ヲナサ、ル前ハ必ス勸解スルコトナリ
 勸解ハ各自己レノ權利ヲ以テソノ事物ヲ自由ニ取扱フヲ得ヘキ權
 アル人ニアラサレハ之レヲナサ、ルナリ
 幼年又ハ人ノ妻治産ノ禁ヲ受ケタルモノ等ソノ事物ヲ自由ニ取扱
 フヲ得サル人ハ其ノ後見人管財人支配人等一々相談シテ允許ヲ受
 ケサレハ能ハサル故ナリ
 若シ勸解ヲナサントセハ右數人ヲ呼寄せサルヲ得ス然ル時ハ其手
 數モ多クシテ容易ナラス理ニ於テ當然ノコトニアラサルナリ
 第四十九條ノ目ニアルモノハ總テ勸解ニ及ハストス何トナレハ政
 府縣邑等ノ事件ニ付テハソノ會議員ヲ盡ク呼ハサレハ能ハス是又

理ニ當ラサルコナリ
 自主ノ權ナキ者勸解ニ及ハサルハ勿論又ソノ人ハ勸解スヘキ人ト
 雖トモソノ争フ所ノ事和解ヲナスヲ得ヘキ事ニアラサレハ勸解セ
 ス
 タトヘハ子ヨリ人ヲ指シテ我父ナリト訴フル如キ之レナリ
 又夫婦別居ノコト夫婦財産ヲ分ツコト婚姻取消ノコト等モ亦同シ
 尤モ夫婦争ヒテ勸解スルコトアレ共其時ハ縣裁判所ノ裁判官之レヲ
 爲スナリ治安裁判官ニテハ之レヲナサ、ルナリ
 右ノ道理ハ治安裁判官ヨリハ縣裁判官ハ威權モアリテ勸解モ能ク
 行届ケハナリ且治安裁判官ハ夫ノ朋友ナトニテ多ク相狎ル、ノ嫌
 アリソノ事柄佛ニテハ鄭重ニナスユヘナリ 民法離婚夫婦別居ヲ
 訴フル等條ニ詳ナリ
 右ハ訴ヘタリトモ必スソノ訴ノ通りニスルモノニアラス其條理ヲ

篤ト裁判官ニテ承知セサレハ之レヲナサ、ルナリ
 離婚ハ重キコトユヘ離婚ニナラサル様却テ治安裁判官ニテ勸解シテ
 可然トノ説アレ共治安裁判官ハ平日相逢フユヘコ輕ンシテ夫婦互
 ニ感セサルノ意味アリ
 若シ勸解シテ不承知ナレハ必ス別居セシメテ夫々ソノ家屋ヲ擇ヒ
 及ヒソノ給料ヲ與フルコ
 子アレハソノ子ノ引受等マテノ手ヲ付ケサルヲ得ス此等ノコトハ治
 安裁判官ニテ之レヲ處置スルノ權ナシ之レ亦縣裁判所ニテ勸解ス
 ル所以ナリ
 勸解スヘキコト〇勸解スヘキ人〇主タル訴訟此三件ニ限り勸解スル
 ナリ
 然レモ至急ノ場合又事情ニヨリ勸解ニ及ハサルモノナリ

○商業ノ事○家賃ノ事○土地借貸ノ事○利息ノ事等ナリ
 又被告三人以上ノ時ハ勸解セス然レモ之レニ反シ原告人多クシテ
 被告人一人ナレハ勸解ス
 右ノ理ハ人情大抵拒ムコアル故ニ被告人多數ナル時ハ必ス之レヲ
 拒ミ勸解トバカサルモノナリ
 原告人ヨリ勸解ヲ願出ル時ハ既ニ一步自ラ退キ相談スルノ情アル
 故被告人ハ必ス之レニ乗シ多人同腹ニテ申張ル故勸解セサルモノ
 トス
 タトヘハ外國人ヨリ我政府ニ雇ハレ度ヲ願フ時ハ政府ニテハ成
 ル丈ケ給金ヲ賤シクシテ使ハント云ヒ外國人モ終ニ賤給ニ従フカ
 如シ四海兄弟ト云ト雖モ此ニ至テハ虧ル所アリ
 總テ願ヒ出ルモノハ損ナリ

此四十九條ノ目ニ於テハ大ニ議論アリ今ハ七項ノ内二項ヲ取レリ
 第一項 官府及ヒ云々ハ無論勸解ニ及ハサルモノニテ此處ニ掲ク
 ルニ及ハス
 第三項 主タル訴訟云々モ原ヨリ勸解スヘカラサルモノユヘ亦掲
 クルニ及ハス
 第四項 商業ハ急ナルモノニテ之レモ掲クルニ及ハス之レハ第二
 項ノ迅速ナル中ニ含有スルナリ
 第一項ハ行政上ニ關スルコニアラス民事ニ關スルナリ
 第五條六項モ記スルニ及ハス年金養料ノ拂方等原ヨリ勸解ノ出來
 サルモノナリ
 第五項中負債ヲ償ハサルニ付キテノ禁錮ハ已ニ廢シタリ
 但シ刑事ノ裁判ノ費用ト罰金ヲ拂ハサルコトニ付テハ尙ホ禁錮ア

右等ノ如シ佛國ノ法律ニ於テモ不備ノ所アリ故ニ之レヲ其儘日本
 ニ行フコアル可カラス我國ノ害ヲ他國ニ及ホスナリ
 併シ此法ヲ立テタルノ宜シカラスト云フニアラス法律編輯ノヨロ
 シキヲ得サルヲ云フナリ
 勸解ハ現地多分行ハル、コナリ左スレハ此事ヲ如此云々ト治安裁
 判官ニテ證書ニ認メ約定ヲ立サスルコナリ
 其約定ハ變改スヘカラサルモノナリ
 又其勸解調ハサル時ハソノ調書ノ寫ヲ受取り後訴訟ニ呼出ス時使
 吏ニ渡スナリ
 治安裁判官ハ公正ノ官吏ナリ然ルニ第五十四條ニ私ノ契約書ノ力
 アリト書キタルハ甚宜シカラス治安裁判官ノ書キタルモ公正ナル

故ニ萬一詐偽アリテ他人ヨリ偽リナリト訴フルマテハ正シキ證ト
 スルモノナリ
 公證人ノ證書ハ何方ヘ持出ストモ公正ノ證書ニテ通ルモノナリ治
 安裁判官ノ書キタルモノハ裁判所ニ持出サレハソノ効ナシ
 何故ニ公證人ノ證書ト治安裁判官ノ證書ト右ノ如ク違ヒアリヤト
 云ハ、此法律書ヲ作ル時ハ國議院ニテ草案ヲ拵ヘタルモノナリ其
 節ノ考ヘニ治安裁判官ノ書キタルモノ一般公正ノモノトスルトキ
 ハ勸解々々ト云ツテ皆ナ治安裁判官ノ書付ヲ乞フニ至リ公證人ハ
 ソノ職ヲ曠フスルニ至ル故ニ治安裁判官ニ權ヲ付ケサル爲メニ如
 此ナシタリ

右ノ譯ハタトヘハ一萬フランクノ契約書ヲ公證人ニ頼ム時ハ三百
 「フランク」ノ書賃アリ之ヲ治安裁判官ニ頼ム時ハ一錢ノ費ナシ之レ

ヲノ公證人ニ頼ムモノナキニ至ル原因ナリ因テ此ノ私ノ字ヲ下シ
 テ暗ニ公證人ヲ助ケタルモノナリ
 故ニ公證人ノ書キタルモノハソノマ、公正ノ書トナリテ何地ニテ
 モ行ハルレトモ治安裁判官ノ書キタルハ同シク公正ノ證書ニシテ
 一應裁判所ニ出サレハソノ用ヲナサス
 公證人ノ證書ノ末文ニハ「オーノンデ、ビユプル、フランセー」ノ文アリ
 佛蘭西人民ノ名ヲ以テノ義ナリ之レヲ日本ニテ云ハ、
 天皇陛下ノ御名ヲ書クカ如シ此公正證書ノ重キ所以ナリ
 此以下再ヒ勸解ノコトヲ説ク
 若シ兩人ノモノ勸解届カサルトキハ其届カサル旨ヲ呼出狀ニ記載
 ス

勸解呼出ノ節欠席スルトモ治安裁判官ニテ欠席裁判ヲナスコト能
 ハス只欠席シタル旨ヲソノ治安裁判所ノ呼出狀ニ記入ス
 然レトモソノ欠席ノモノヘハ治安裁判官ニテ「十」フランクノ罰金ヲ
 申渡スノ權アリ
 ソノ罰金ヲ納ムルニハ八日ノ期アリ
 雙方ノ中一方ノ者勸解ニ欠席シテ罰金ヲ拂ハサル迄ハ縣裁判所ニ
 訴訟ヲナスコトヲ許サス 第五十六條見合
 原告人ニテ欠席スレハ「十」フランクヲ出シタル上ニアラサレハ訴訟
 ヲナスヲ得ス又被告人ニテ欠席シテ罰金ヲ拂ハサレハ欠席裁判ト
 ナル可シ
 右拂フタル證ハ代書人ヲ雇ヒ得ルナリ
 ソノ勸解ニ付テノ書付ノ寫ヲ送ルユヘ拂フタルコトモ分カルナリ

第七號 明治七年五月十五日

第六十五條 ソノ呼出狀ト共ニ勸解ヲナシ得サル事ノ調書ノ寫又ハ勸解ニ出席セサル事ヲ記シタル書ノ寫ヲ送達スヘシ若シ之レヲ送達セサル時ハソノ呼出狀ノ効ナカルヘシ○又呼出狀ト共ニ訴訟ヲナスノ憑據タル證書ノ全部又ハ一部ノ寫ヲ送ルヘシ但シ此等ノ寫ヲ呼出狀ト共ニ送達セサル時ハ後ニ吟味ノ時原告人其寫ヲ送ルコトアリト雖ヒソノ寫ノ費用ヲ裁判費用中ニ加フヘカラス

訴訟セントスルニハ先ツ必ス勸解スヘキコトナリ勸解調フ時ハ訴訟トナラスシテ濟ムナリ元來勸解スヘキコト勸解スヘカラサルコトノ別アリ勸解ノ調ハサルコト又ハ欠席シタルコトアレハソノ旨ヲ證書ニ認メ原告人ニ渡ス訴訟ノ時ハ使吏ソノ證書ヲ呼出狀ニ添ヘテ被

告人ヲ呼出ス

其呼出狀ニハ勸解ヲ許シアルコトヲ書クニ及ハス又勸解ノ出來サルコトヲ記スルニ及ハス勸解ニ及ハサルモノハ記シ置ストモ其事柄ニテ分明ナレハナリ

勸解スヘキモノト雖ヒ急ナル時ハ勸解ヲ受ケスソノ儘訴へ出ルナリ其時ハ勸解ヲ受ケサル旨ヲ記ス但シ此時ニ限リソノ旨ヲ記入スルナリ

幼年ノコト身分ノコトハ過日説キタルカ如シ

至急ノコトハ勸解ヲナサス然レモ裁判官ニ於テ至急ナラスト見込ム時ハソノ呼出狀ヲ效ナシトス其時ハ被告人出ルトモ之レヲ歸ヘシテ更ニ勸解セシムルナリ

此時ニ當ツテハ其呼出ニ被告人出席セスト雖ヒ元ト勸解ノ順序ヲ

經サルニヨリ原告人ノ過チナルユヘ其呼出狀ノ費用ハ原告人之レ
ヲ擔當スルナリ

其時迄ハ代書人未ク手ヲ付クルコトナキニ付ツノ費用ナキナリ
使吏呼出ニ行ク旅費ハ前ニ説ク如ク一日二十「フランク」ノ費用ヲ拂
フナリ

原告人ハ被告人三人以上アリトシテ呼出タル時ツノ中ノ一人ハ訴
訟ニ關セサルコトアランニハ被告人二人トナルユヘ勸解セシムルナ
リツノ時ハ前ニ同シク費用ハ原告人ニテ辨スルナリ
右ハ實地ニハ少キコトナレトモ決シテナシトセス

此一説ハ教師今考ヘ出ス所ト云フ

三人以上以下ト區別ヲ立テタルハ原告人我カ志願ヲ急クユヘワザ
ト被告人ヲ増シ三人以上トシテ勸解ヲナサ、ル等ノ弊アルユヘ之

レヲ防ク爲メニ此等ノ處ハ嚴ニツノ區別ヲ立テタルナリ若シ右場
合ニテ呼出狀ヲ出シタリトモ其呼出狀ハ効ナキモノトス

第六十一條ニ載スル證據モノ、寫ヲ送ルヘシ

此書付ヲ添ヘ呼出スコト原則ナレモ若シ其寫ヲ添ヘストモツノ呼出
狀ハ廢物トナルニアラス其書類ノ寫ハ後ヨリ裁判所ニ出スモ妨ケ
ナケレ共費用ハ原告人ニテ之レヲ拂フナリ

前條呼出狀ニハ證據ヲ節略シテ書載スルコト云ヒ此條ニハツノ寫
ヲ添フルコト云フナリ

第六十六條 使吏ハ總テ自己ノ宗系ノ血屬又ハ姻屬ノ親及ヒツノ婦
ノ宗系ノ血屬及ヒ姻屬ノ親ノ爲メニ呼出狀ヲ送達スヘカラス又其再
從兄弟以上ナル自己ノ傍系ノ血屬及ヒ姻屬ノ親ノ爲メ呼出狀ヲ送達
スヘカラス若シ此規則ニ背ク時ハ其呼出狀ノ効ナカルヘシ

使吏ハ誓ヲ立テタル官吏ナレ共親族等ノ嫌疑ヲ避サルヘカラス故
 ニ親族ノ爲メニ呼出狀ヲ取扱フヘカラス
 タトヘハ親族原告人ニテ被告人ヘ呼出狀ヲ送達セシムルニ使吏故
 ラニ之レヲ被告人ニ送達セス因テ欠席裁判トナリ遂ニ故障申立又
 ハ控訴ノ期限ヲ過キタル迄被告人ニテ知ラサル等ニテ大ニ其迷惑
 トナルコトアルユヘ之レヲ禁シタルナリ

此條中血屬姻屬ノコトハ別系圖アリ此儀ハ別ニ説クヘシ

此條ニ利トナル方ヲ禁シテ害トナル方ヲ禁セス先ツ其區別ヲ説カン
 ニ其害ニナルコトハタトヘハ使吏ニテ物件ヲ取上ル裁判ニ付其書付
 モ其規則ニ合ハセス又取上ケモセス然ル時ハ親族ノ爲メヲ量リテ
 却テ害トナル何トナレハ終ニソノ爲メニ親族ノ罪ヲ釀スノミナラ
 ス自カラ罪ヲ得ルナリ故ニ之レヲ禁セサルナリ又害トナルコト云

ハ、使吏ノ父ヘ他人ヨリカ、ル訴訟アル時ソノ呼出狀ヲ父ヘハ必
 ラス送達スヘシ

若シ之ヲ送達セサレハ欠席裁判トナリテ父ノ負トナル故ニ必ラス
 送達スルナリ

故ニ親族ノ被告人ナル時ハ禁セサルナリ畢竟利ニナル方ハ之レヲ
 禁シ害ニナル方ハ差支ナキユヘ之レヲ禁セス
 自己ノ宗系血屬トアリテ其分界ヲ立テス上ハ祖々宗々ニ至リ下ハ
 子々孫々マテテ含ンテ云フナリ

姻屬ノ宗系ト云フモ即チ前條ノ如ク上下ニ通シテ云フ
 上ノ自己ノ宗系ノ血屬又ハ姻屬ノ親中ニハ婦ノ宗系ノ血屬ヲ含ム
 下ノ姻屬ノ親トハ夫ノ親屬ニアラス婦ノミノ姻屬ナリタトヘハ一
 度嫁シタル婦ハ舅姑アルヘシ右ヲ引取リタラハ自己ニハ關係ナシ

ト雖モ婦ニハ關係アリ
 婦ヲ離縁スレハソノ姻屬ニ關係ナシト雖モ其子ノ跡ニ殘リタル時
 ハ關係アリ
 一旦離縁スレハ其縁斷ユレモ子アルトキハ其縁斷ヘス之レソノ關
 係アル所以ナリ
 ソノ子ノ祖父アリソノ祖父ニテ自己ヘ呼出狀ノヲテ頼ミタル時ハ
 直ニ拒クテ能ハス愛情ノ起ルハ必定ナリ其愛情ヲ以テ取扱フ時ハ
 必ラス私アルヘシ故ニ之ヲ禁スルナリ
 若シ其子ナキ時ハ姻屬ナシ使吏ニ於テ嫌ヒナシ
 本文ヲ自己ノ宗系血屬又ハ姻屬宗系ノ親及ヒ其婦姻屬宗系ノ親婦
 前婚ノ親ト書ケハ分明ナリ
 再從兄弟以上ハ夫婦雙方ヲ兼テ云フ

傍系ノ血屬トハ伯叔父母以上ナリ姻屬ノ親トハ傍系ニ就テ云フ
 前文ニハ婦ノ姻屬トアリ自己ノ傍系ノ血屬云々ノ所ニハ婦ノ姻屬
 ヲ説カス婦ニ姻屬ノ親アリト雖モソレ等ハ法律ニ載セス妻ノ前婚
 ノ傍系ニハ嫌ナケレハナリ
 子アルトモ子ノ伯叔ノヲハ差支ナシ
 再從兄弟ヲ六級ノ親屬ト云此再從兄弟ノ中ニ異父母兄弟算入セス
 全ク同父母兄弟ヨリ成リタルモノ、ミテ云フ然ラハ異父母兄弟ニ
 ハ送達スルモ可ナリト云フカ如シ法律ノ欠ナリ既ニ法律ニ禁セサ
 ルニ於テハ異父母兄弟ノ爲メニ送達スルトモソノ効アル者トス然
 レモ異父母兄弟ハ婦ノ血屬即チ自己ノ姻屬ノ親ヨリモ其情ニ於テ甚
 タ密ナリ嫌ナキ能ハス此ニ之レヲ禁スルヲ補フヘシ
 然レモ佛ニテハ右ノ嫌ヲ避ケスシテ送達スルヲナキ爲メ裁判所ニ

テ別ニ其取締法ヲ設ケタリ
 此等ノ時ハ裁判所ニテソノ罰ヲ加ヘ甚シキニ至リテハ二ヶ月ノ停
 職アリ又自分ノ爲メニスルコトソノ妻ノ爲メニスルコトハ又此條
 ニナキナリ元ヨリ自己ノ訴訟ヲ自カラ書クハナキ筈ナレトモ法
 律ニ禁セサルニ於テハ差支ナキカ如シト雖モ既ニ親族姻屬ノ爲メ
 ニサヘ禁アルコトナレハ自己ハ勿論ナリ
 若シ右等ノコトナシタルキハ譴責ハ申スニ及ハス餘程重キコトナ
 ルユヘ此條ニハ輕キヲ舉ケテ重キヲ云ハスト見做シテ可ナリ
 日本ニテ法律ヲ立ツルニハ自分ノ爲メニスルコト妻ノ爲メニスルコ
 ト異父母兄弟ノ爲メニスルコト分明記入スヘシ
 此等ノ法律ノ所欠ハ佛國ニテ改革スヘキニ屢々國亂アルヲ以テソ
 ノ改革ニ追マナクソノ儘ニテアルナリ

國議院ニテ舊來「コチド」改正ノ議論アリシカルニ千八百七十年ノ亂
 ニテソノ事終ニ廢シタリ其後巴里ノ變ニ國議院ノ草案等悉ク兵火
 ニ罹リタリ實ニ惜ムヘシ

第六十七條 使吏ハ呼出狀ノ正本及ヒ副本ノ末ニソノ謝金ノ高キ記
 入スヘシ若シ之レヲ記セサル時ハ後ニソノ呼出狀ヲ官署ノ簿冊ニ登
 記スル時五「フラクク」ノ罰金ヲ出スヘシ

呼出狀ノ價ヲ書クヘシ書カストモソノ價ヲ取ラサルニモアラス効
 ナキニモアラス唯五「フランク」ノ罰金ヲ出スノミ此條ハ餘リ大切ナ
 ル條ニアラスソノ謝金ヲ貪ホルコト宿弊ナルニ因テ之レヲ拒ク爲メ
 ニ置キタルナレモ別ニ謝金目錄表アリテソノ價ヲ増減スル規則ア
 レハ此條終ニ無用ニ歸ス

第六十八條 呼出狀ハ被告人ニ之レヲ渡シ又ハ其住所ニ之レヲ渡ス

ヘシ然レ被告人ノ住所ニ其被告人及ヒソノ親族從者ノ共ニアラサル
時ハ使吏ソノ呼出狀ノ副本ヲ近隣ノ者ニ渡シ近隣ノ者ソノ正本ニソ
ノ姓名ヲ手署スヘシ若シソノ近隣ノ者姓名ヲ手署スルコトヲ得ス又ハ
手署スルコトヲ欲セサル時ハ使吏ソノ副本ヲソノ邑長又ハソノ補佐役
ニ渡シ此等ノ者謝金ヲ得スシテ正本ニ檢印ヲ爲スヘシ
使吏ハソノ正本及ヒ副本ニ此等ノ諸事ヲ附記スヘシ

此條已ニ前ニ説ケリ故ニ此ニ贅セズ

第六十九條 前數條ニハ各人民ヲ呼出スコトヲ解ク

此條以下ハ全ク別ナリ第一項ヨリ第六項マテハ無形ノ人ト見做ス
ナリ

第一官府ヲ其土地ノ事ニ管シタル訴訟ニ付キ呼出ス時ハソノ訴訟ヲ
審判スヘキ裁判所々在ノ地ノ州長又ハソノ住所ニ呼出狀ヲ送達スヘ

官ハ無形ノ人ニテソノ所有物アリテ被告人ニナルコトヲ説キタリ行
政ノ事件ニ關シタルコトニアラス即チ官チ一人ト見做シ民事ノ裁判
トナル

官ノ所有ニカ、ルモノハ民事裁判

若シ官ニテ人民ノ私地ヲ取込ム時ハソノ害ヲ受タルモノヨリ訴出
テ民事裁判トナル

又官ノ山林等ヲ買ヒタルコト間違アリ又ハソノ土地家産貸借ノコト
ニ付テノ訴ハ民事裁判又一ツノ大切ノ例アリ日本ニテモ國債アリ

佛ニテモ又大國債アリ此等ハ人民一般ノ金ヲ借ルト同一ナリ此等
ハ政府ト雖モ別チ立テス一般人民ト見做シソノ訴ハ民事裁判トナ

ル

以上皆民事裁判ニナルモノヲ云フ
 以下行政ニ出ル分ヲ云ハシ
 政府ト人民ト關係ノ時政府ノ權ヲ以テ裁判セサルヘカラサルコトハ
 行政裁判ニ歸ス
 タトヘハ租税ノコトニ付其出スヘキ高ハ行政官ニテ法律ヲ以テ定ム
 ルニ其各人民ニ取立ルコトハ各地方ノ行政ニテ定ムルコトナリ
 毎年翌年ノ不動産税ハ何程ト定ムタトヘハ其高百萬トスレハ之ヲ
 八十六縣ニ科シ一縣ニテ何程ト定ム
 尤州ニ貧富大小アレハソノ相當ヲ以テ割合ヲ定ム州又之レヲ郡ニ
 割付又之レヲ邑ニ割付一邑ノ高ヲ定ム
 ソレヨリ邑會議院之レヲ一人々々ニ割付ルナリ其人々々割付ニ付テ
 ハソノモノ所持ノ土地廣狹產物宅地空地等ヲ表ニヨリ檢査シソノ

税ヲ科スルナリ

右表ハ行政官ニテ製ス其表ニハ不適當ノコトアリテ餘分ニ税ヲ拂フ
 コトアル時之ヲ訴フル如キハ即チ行政裁判ニ歸スルナリ
 日本ニテ云ハ、

天皇陛下ソノ高ヲ定ムルヨリソノ各人ニ割付ルニ至ルマテ行政上
 ニテ取極ムルコトナレハナリ
 此等ノコト若シ民事裁判ニテ取揚クルキハ「コンブリー」ト權限ノ爭
 ヒトナル

三世「ナボレ」千八百五十二年ニ大統領トナル時ハ前主「オーリア
 」家ノ財産ヲ取揚ケント布告セタリ此「オーリア」家ノ財産ハ佛國
 ノ物ナリ然ルニソノ「オーリア」家ノ子孫ヨリ右ノコト布告直シニ
 ナシテモライ度旨民事裁判ニ訴ヘタリ之レヲ民事裁判ニ取揚ケタ

ルヲ以テ巴里ノ縣令ヨリ故障申立タル故民事裁判ニテ之レヲ拒ム
キハ權限ノ争ヒトナルニ付之レヲ行政裁判ニ歸シタリ然ルニ右ノ
訴訟ハ布告ノ通リト裁判ニナリタリ「オーリアン」家ノ訴ハ効ナシト
ナレリ

昨年「ナボレチン」三世ノ甥ナルモノ佛ニ歸ラントスルヲ警視廳ノ手
ニテ留メタルニ付人民ノ權利ヲ妨ケタリトテ警視廳ニ對シ民事裁
判所へ訴へタリ

此時ニハ民事裁判ニテ取揚レハ權限ノ争ヒアルト見タル故此訴ヲ
斷ハリタリソノ時ノ言ニ一政府斃レテ一政府立ツ時ハ新政府ノ爲
メニ人民ヲ保護セサルヘカラスト云テソノ訴ヲ取上サルナリ
タトヘハ教育ノ官アリ不拔ノ官ナラサルハ場合ニヨリ免職セラル
、トアリソノ場合ニヨラスシテ免職セラル、時ハ何故ニ免職セラ

ル、ヤト訴フルコアリ此訴訟ハ行政裁判ニ訴フ
タトヘハ文部卿ハ自分教師ヲ免職スルノ權アリ然レ共自分ニハ故障
ヲ訴フルノ權アリ

自分奉職中休暇ヲ得テ日本ニ來リ居ルニ佛ノ文部省ニテ免職スル
キハ自分ニテ必ス之レヲ行政裁判ニ訴フナリ

右權限ノ大主意大段ニツニ分カル官ノ公權上ニ就テノ訴訟ハ行政
裁判ナリ

官ノ私權上ニ就テノ訴訟ハ民事裁判ナリ

第八號 明治七年五月十五日

第六十九條 第一項ノ續キ

官ニハ必ラス所有物アリソノ事ニ付テノ訴訟ハ一般ノ法ニ循ヒ民

事裁判ニ歸ス
 官ノ所有物ニ於テ不動産ナレハ物件所在ノ地ノ裁判官ノ權ニテ處
 分ス
 右ノ場合ニ於テ官府原告ニテ人權ナルキハ被告人所在ノ裁判所へ
 訴フナリ
 若シ官府人權ノコトニ付被告人トナルキハ何レノ裁判所へ訴フヘキ
 コトハ法律上ニ云ハスト雖モ呼出狀ヲ何レノ所へ送達スルト云フコ
 トハ法律ニコレアリ
 第一項ニ云フ如ク官ノ所有物ニ付テノ訴訟ハ州長又ハ州長ノ住所
 へ送達スルトアリ一體官府ノ所有スル山林田地等ニ必ス管理人ア
 リ故ニ此管理人ニテ此訟ヲ引請クヘキカ如シト雖モ州長ハ一州ノ
 總代ニシテ聰明ナリ且其管轄地ノ支配權アルヲ以テ訴訟ヲ防クニハ

管理人ヨリ州長ハ委シキユヘ州長ヲ呼出スナリ
 タトヘハ神奈川縣中ニ製鐵場アリ鑛山アリ工部省ニ屬スルモノト
 雖モ工部省ハ總テ製鐵ニテモ鑛山ニテモ其業ヲ盛大ニスル責アル
 モノニシテ其土地ハ即チ政府ノモノナレハ大藏省ノ管轄ナリ因テ
 工部省ヲ呼ヒ出タサスシテ縣令ヲ呼ヒ出スナリソノ時ハ縣令ハ政
 府ノ名代人トナルナリ
 何故ニ縣令ヲ政府ノ名代トナスト云ハ、
 大藏卿ハ全國ノ地ヲ管スルコトナレモ一人ニテ自身一々之レニ應接
 スルコト能ハサルユヘソノ地ノ情態ヲ熟知スル縣令ヲ以テ名代人ト
 ナスナリ
 タトヘハ神奈川ニアル鑛山ニテ人民ノ所有地へ侵入シタルキハ鑛
 山寮出張ノ官吏ヲ呼ヒ出スヘキカ如シ然ルニ縣令ヲ呼ヒ出スハ不

相當ニ見ユレヒ否ラス尤モ事ニヨリ鑛山寮ノ官吏自ラソノ規則ヲ侵シタル時ハ直チニ寮ノ官吏ヲ呼ヒ出スヲアレヒ鑛業ニテ人民ノ所有物ニ侵入セシ時ハ必ラス縣令ヲ呼出スナリ元ヨリ寮ノ官吏ハ土地ノヲニ付テハソノ訴ヲ防クノ權ナクシテ縣令ハ土地所有ノ名代人ナレハナリ

縣令ハ政府ノ代人トハ云ヘヒ分別スレハ即チ大藏卿ノ代人トナル譯ナリ

第二 官府會計局ヲ訴訟ノ事ニ付キ呼出スルハ其官吏又ハソノ官署ニ呼出狀ヲ送達スヘシ

右ハ人權ニ關スルヲニテタトヘハ會計官吏ニテ人民ヨリ金ヲ借ルヲアリ右ニ付訴訟起ルルハ人民相互ノ訴訟ト同一ニ歸スル故ソノ會計局ニ呼出狀ヲ送達スルナリソノ借金ハ官ノ借用ニ相違ナケレ

此官ノ公權ヲ以テ借リタルニアラス畢竟會計局ノ私借ナリ故ニ民事裁判トナルソノ時ハ大藏卿ヲ呼出スコトナレヒソノ名代ニ會計局ヲ呼ヒ出スナリ

又タトヘハ金ヲ「バンク」ヘ預ル如ク人民ヨリ官署ヘ預ケルヲアリ尤モ利金モアルナリ此等ノヲニ付訴訟トナルルハ人民ヨリ官署ヲ相手取ルヲナリ

又政府ニ關スル新聞紙又ハ公證人等ハ保證金ヲ出シ置クニソノ業ヲ罷メル時ハソノ金ヲ政府ヨリ返スヘキニ猶之レチ返サ、ルルハ訴トナルナリ

ソノ時ニハ政府ハ政府ナレトモ金ノ預リ人ト云フモノナリ故ニ一般人民ノ訴訟ト同シ

凡政府ニテ公ケノ權ヲ以テ取扱フタル金ニ於テハ民事裁判ノ權外

タリ

タトヘハ官吏ノ私ノ疎忽ニテ出仕セサル等ノヲニテ月給ヲ引クト
キソノ官吏ヨリ苦情ヲ訴フルモノハ民事裁判ノ權ニアラス即チ行
政裁判ノ權ニアリ

又タトヘハ官府ニテ人民ヨリ金ヲ借ルトキハ官府ノ權ニテ借ルニ
アラス官府ニテ人民トナリテ人民ヨリ借ル理ナリ即チ國債等之レ
ナリ

又タトヘハ陸軍ニテ軍器ヲ注文スルニソノ軍器ニ付テノ訴訟ハ行
政裁判ノ權ナリ

ソノ節ハ注文シタル省ノ卿自カラソノ器械師ヲ呼ヒ出タシ且ツ自
カラ裁判スルナリ

國債ニ付キ争ノ起リタルトキハ即チ此本條ニ入ルナリ

尤モ右ノ場合ニ於テ争ノ起ルヲハ絶テナシ近年ノ戰ニ國債證書ヲ
失ヒタルモノ澤山アリソノ時ニ更ニ證書ヲ請取ルヲ會計官ヘ乞
フモノアリソノ節右ヲ取調ヘテ渡スヘキニ之レヲ拒ムキ之レヲ訴
フ如キハ即チ民事裁判ニ入ル

タトヘハ陸軍卿ヨリ軍器ヲ注文シタルニ其器械遲延シテ未タ出來
サル内ニ最早軍モ果タリ因テ其事ニ後レタルヲ以テ軍器ノ價ヲ引
ケト云フキニ争ノ起ルモノハ私事ニアラス公權ナリ故ニ行政裁判
トナル

右ノ如ク軍器ノ粗惡又ハ出軍ノ跡等ニテソノ價ヲ渡サ、ル時訴ノ
起リタルトキハ民事裁判官ニテソノ争ヲ審理スルノ理ナシ即チ陸
軍卿ニテ裁判ス

右人民ノ爲メニ軍ヲ起スハ政府職務上ノ公權ナルニ其用ヲ勤ムル

モノツノ事ニ怠リ或ハ其物ヲ粗悪ニスルハ之レカ爲メ不都合ヲ生
スルニ至リ政府人民ニ對シ其義務ヲ欠ク所以ノ理ヨリ起ルナリ
國債ヲナスニ於テソノ人民ヲシテ損害ヲ受ケサラシメント欲スル
カ爲メニ政府ノ權ヲ以テセス一般人民トナリテ借ルナリ
佛ニテモ行政ノコニ付テハ自カラ注文シテソノ爭ヲ起シ自カラ之
レヲ裁判スルハ不都合トノ論アリ故ニ政府外ニ別ニ行政裁判所ヲ
置キ通常裁判官ノ如ク不拔ノ權ヲ與ヘタル裁判官ヲ設ケント云フ
說アレヒ未ダ行ハレズ
本文ニカヘリテ云フ

官吏ニテ金ヲ借ルニ人民一般ノ如クスルハ少シク不相當ナルカ如
キモノナレヒ左ニアラスコ、ニ陸軍省ノ注文ヲ受ケタル軍器ヲ同
省へ納メ陸軍卿ノ檢印アル證書ヲ以テ金ヲ請取ラントスルニ會計

官吏ニテ金ナシト云テ渡サ、ルキハ如何スヘキヤ即チ
右ノ注作品ハ既ニ檢査済ミニテ納マリタルモノナレハ即チ民事裁
判トナルナリ

器械ノ美惡ト出來ノ遲速トハ行政裁判ナリ

既ニソノ品ヲ受取りテ金ヲ渡サ、ルキニ至テハ民事裁判ナリ

此條ニ於テ法律上ニ付キ議論スヘキコアレヒ佛ニテ此條ヲ存スル
間ハソノ立テ置ク處ノ理ヲ辨明セサルヘカラス

第三 官署又ハ公舎ヲ訴訟ニ付キ呼出ス時ハソノ本局ニ呼出狀ヲ送
達シソノ他ニ於テハソノ委員又ハ其官署ニ送達スヘシ

公ケノ建造物ヲ云フ病院狂院又ハ養育院質屋等ノ如キ官ヨリ監察
ヲナスモノアリ

官署ト云フモ公舎ト云フモ同シク公ケノ建造物ヲ云フ諸省等ノ如

キハ此中ニハ入ラス
 右ハ全ク人民ヨリ釀金ニテ出タルモノナレトモ政府ヨリ監察チナス
 ヌヘ公ケノ建造物ト云フキハ邑ノ持チユヘ此内ニ入ラス
 ヲノ建物ハ私有物ナレトモソノ支配チナスモノハ官ヨリ命スルナリ
 此公ノ字妥ナラス
 ヲノ附屬ノ官員ノ月給ハ此建物ノ揚リ高ヨリ出ス
 此建物ヲ建ルニモ閉ルニモ政府ノ允許ナカルヘカラス尤モ地方官
 ニテ允許ス此會計モ官ニテ檢査スルナリ
 此本局ハ首府ニアリ支局ハ縣ニアリソノキハ本局ハ本局ノ地支局
 ハ支局ノ地ニ呼ヒ出スナリ
 第四 皇帝チソノ私領ノ事ニ付キ呼出ス時ハ裁判所管轄地内ニ在ル
 檢事ニソノ呼出狀ヲ送達スヘシ

佛ニテハ長ク王ニテ後皇帝トナリ今ハ大統領トナリタリ大統領ニ
 對シテハ此條ハ用非ス
 古ヨリ言傳ヘニモ王ニ對シ訴チナスコトヲ得スト故ニ檢事ヲ呼出ス
 ナリ此訴訟法ヲ作りタルトキハ檢事ヲ王ノ名代ト立テタリ故ニ此
 ノ如シソノ後千八百三十二年ニ至リ全ク王ノ所有物ヲ管轄スル官
 吏出來タリ 民事目錄官 吏ト譯ス 後ハ此官吏ヲ呼出スコト、ナリタリ
 一体檢事ヲ王ノ名代ト云フハ間違ヒナリ一般人民ノ名代ナリ
 故ニ千八百三十二年ノ時ニ至リ民事目錄官吏 アルトミニスタラト 王
 ノ書自ラ以テソノ所有チ呼出シソノ後千八百五十二年ニ至テモ同
 物ヲ支配スル官吏ノ義ニ決シテ王ヲ呼ヒ出スコトナシ
 千八百四十八年千八百七十二年トモ大統領ニ對シテノ法律ハ別ニ
 設ケサリシ

第五 邑ヲ呼出ス時ハ邑長又ハソノ住所ニ呼出狀ヲ送達シ巴勒ニ於テハ州長又ハ其住所ニ之レヲ送達ス可シ

邑ノコトヲ説ク前ニ先ツ説クコトアリ千八百六年訴訟法ヲ編成スルマテハ縣ハ只土地ノ分界マテニテ縣ヲ無形ノ人ト見做スコトハ之レナシ故ニ縣ノコトハ此ノ法律ニ載セザリシ今日ニ至リテハ縣ヲ無形ノ人ト見做スコトニナリタリ故ニ縣令ヲ呼出スコトニナリタリ

縣令ハ縣ノ名代人ナリ又政府ノ名代人ナリ故ニ人民ヨリ政府ヲ相手取ルキハ縣令ハ政府ノ名代人トナル又縣ヨリ政府ヲ相手取ル時ハ縣令一人ニテ縣ト政府トノ名代人トナルコト能ハス故ニ縣令ハ政府ノ名代トナリ縣ノ名代人ハ縣會議院中ヨリ撰ミ出ス

右ノ名代人ヲ擇マサル間ハ縣會議院ノ長之レヲナス

邑ニ所有物アリ右ニ付キ訴アルキハ邑長ニテ邑ノ名代人トナル

邑ヨリ縣ヲ相手取ルキハ縣令ハ縣ノ名代人トナリ邑長ハ邑ノ名代人トナル縣ヨリ邑ヲ相手取ルキ亦同シ尤モ此例ニアラサルモノアリ「巴里」リヨン之レナリ

巴里ハ二十「アルロンギスマン」アリ一「アルロンギスマン」毎ニ長アリ右ノ如ク數人アルユヘニ縣令ヲ相手取ルナリ「リヨン」「巴里」ト同シキユヘ縣令ヲ相手取ルナリ

右ニ付テ少シク面倒ナルコトアリ若シ縣ヨリ巴里府ヲ相手取ルトキ縣令一人ニテ縣ト巴里府トノ名代人トナルコト出來サルコトナリ

巴里ノ規則ハ人民ヨリ巴里ヲ相手取ルトキハ縣令之レニ代ルソノ時ハ邑長ノ仕事モ一人ニテ兼ヌルコト能ハス

ソノ時ハ權力アル方ニ依テ縣ノ名代人トナリ邑ノ方ハ邑會議院ヨリ名代人ヲ撰ムナリ千八百四十八年マテハ巴里ノ縣令ヲ稱シテ「メ

「中心邑」ト云フ今ハ否ラス
 所以ハ縣令ハ巴里ノ邑會議院ニ上席セス別ニソノ上席人ヲ撰
 ムコニナリタリ故ニソノ名ナシ
 巴里ヲ此クノ如ク區分スルハ一人ノ「メー」ニテ廣キ首府ヲ總轄ス
 レハ人民ノ不便利ヲ生スレハナリタトヘハ婚姻死去ノ届等ヲナス
 ニモ遠隔ノ地マテ往來セサルヘカラス故ニ便利ノ爲メニ數區ニ分
 チタルナリ

第九號 明治七年五月二十日

第六十九條 第五ノ第二項

此五箇ノ場合ニ於テハ呼出狀ノ副本ヲ受取リタル者ソノ正本ニ檢印
 スヘシ若シ之レヲ受取ルヘキ者ソノ所ニ在ラス又ハソノ所ニ在リト

雖モ檢印ヲナスコト肯セサル時ハ治安裁判所ノ裁判役又ハ初告裁判
 所ソノ檢印ヲナシテソノ呼出狀ノ副本ヲ受取ルヘシ

本條以上ノ五項ハ總テ無形人ニ對スルモノヲ云フ右ハ人ニ對スル
 呼出狀ト違ヒ政府ヲ呼出ストキニ於テハ官吏ノ身ニ切實ナラサル
 ヲヘ怠リ勝チナリ故ニ官吏ノ身ニ染ミ忘レサル爲メニ檢印セシム
 ルナリ前ニ説キタル本人並ニ一家不在ノ時近隣ニ送達シ檢印セシ
 ムルハ使吏ヲ疑フニハアラス請取リタルモノ、等閑ニセサル爲メ
 ナリ

民法ノ講義ニ於テ義務ノ生スル五根元ヲ説キタリ此條ハ五根元中
 契約ノ部ニ屬ス即チ代理ヲナスノ契約ナレハナリ

第一ハ縣令

第二ハ官吏

第三ハ公舍等ノ支配人

第四ハ皇帝ノ私有物支配

第五ハ邑長等

右等ハ總テソノ職ニ任シタル節既ニ代理ヲ爲スノ契約ヲ生シタル
モノトス

若シ右等ノ官吏ニテ請取ルヲ欲セス又ハ不在ノ時ハ治安裁判所
ノ裁判官又ハ被告裁判所ノ檢事ニテ請取り檢印ヲナスナリ
其官吏等ニテ拒ムヲ甚ク稀レナリ然レモ時ニヨリソノ呼出狀ヲ
見テ州邑等ノ官吏ニテ此レハ他ニカ、ルヲニ付キ請取ラスト故障
ヲ述ル時ハ使吏ニテハソノ當否ヲ辨別スルヲ能ハサルユヘ裁判官
又ハ檢事へ渡スナリ
官ノ公權ヲ以テ長官ヨリ品物ノ注文等ヲ申付ルヲアリソノ事件ニ

付呼出狀ヲ會計局ノ官吏へ送達スルニ右官吏ニ於テ我レハ此事ヲ
知ラスソノ省ノ長官ヲ呼出スヘシト云フトキハ使吏ニテ呼出狀ヲ
送達スルコト前ニ同シ
呼出狀ヲ檢事又ハ治安裁判官ニテ夫レ々々へ送達シタル上ハ拒ム
ヲ能ハス故障アレハ裁判所へ出テ述へサルヘカラス萬一ソノキニ
モ日限中ニ裁判所へ出サレハ欠席裁判トナリテ邑長ナレハ一邑ノ
責メヲ一身ニ受クルナリ
檢事又ハ治安裁判官へ渡ストト定メタルハ使吏ノ便利ノ爲メナリ
ソノ送達スヘキ距離ニ於テ「カント」ナレハ治安裁判官ノ方近シ巴
里等ニテハ檢事ノ方近シ何レニテモ其便利ノ方ニ渡シテ然ルナリ
治安裁判官ニテハ必ラス請取ルナリ何トナレハ官祿アリ不拔ノ權
ナシ故ニ拒ムヲ得サルノ情態アルナリ邑長ハ官祿ナシ故ニ自由

ニ議論スルヲ得ル

第六 商社ヲ其社ヲ結ヒタル時間呼出ス時ハソノ商社ノ家ニ呼出狀ヲ送達スヘシ又既ニ商社ヲ解キタル後ハソノ社中ノ者又ハ其住所ニ之レヲ送達スヘシ

商社モ亦無形人ナリ

商社ヲ結ヒソノ社ノ存在スル間ハソノ商社ノ會所ニ送達スヘシ若シ定マリタル商社ノ會所ナキハソノ社中ノ人又ハ其人ノ住所ニ送達スヘシト云フナリ

商社ヲ解キタルトキノ「ハ書テ無之併シ總會計ノ仕揚ケノ濟迄ハ即チ此條ニ循フナリ商社ノ會所ノナキト云フヲ説カン
タトヘハ肥前ノ陶器ヲ東京ニ出シ賣ラント數人約束シテ運輸スルモノアリ肥前ニモソノ會所ナク東京ニモソノ會所ナシ併シ數人約

束シテ商社ヲナストキハ即チ其社ハ有ルナリ

商社ヲ立ツルトハ社ノ爲メニスルニアラス一般ノ人ノ爲メニスルナリ然ルニソノ社ヲ解キタルトキ一人ニヨリ勘定ヲ取ル「ニテハ甚タ債主ノ迷惑ナリ故ニ總勘定ノ濟ムマテハ法律上ニ於テ其社ヲ解カサルモノト見做シテソノ社ヨリ勘定ヲ取ル様ニ定メタルナリ」
右ノ譯ニ於テハ裁判ノ都合ノ爲メヨリハ人民ノ都合ノ爲メヲ重ニスルナリ
民法之百二十九條ヲ參照スヘシ
既ニ會社ヲ結ヒ銘々動産不動産ヲ差入レタルトキハ即チ會社ノ動産不動産ニテ一己ノモノニアラス故ニ其不動産ハ書入レテ一己ニ金ヲ借ル事ヲ得ス

會社ニ於テ民事商事ノ別アリ

商社ヲ結フニ既ニ其社ニ持込ミタル動産不動産ハ會社ノモノナレ

トモ民事ハ否ラスソノ所有物ヲ持込ミタリトモ矢張り各自ノモノナリ

民事商事全ク別ナリ商業會社ハ無形ノ人ト看做セトモ民事會社ハ無形ノ人トセス商社ニテハ持込ミタル財産ハ商社ノモノナリ只ソノ分前金而已各自ノ利トナル
 タトヘハ幼年ノモノ商社ニ入ルニ元來相當ノ裁判所ノ允許ナクシテハ幼年ノモノニテ不動産ヲ賣ルヲ得スト雖モ商社ニ入りタル上ハソノ手數ヲ經スシテ賣ルナリ之レハ商社ノモノニシテ且動產ト見做セハナリ

民事ノ社ニ於テハ前文ノモノヲ賣ルヲ能ハス有形ノ人ナレハナリ
 會社ヘ入レサル財産ハタトヒソノ社分散スルヲアリトモソノ分散中ニハ入ラス既ニ社ニ入レタル丈ケノモノハソノ分散中ニ入ルナ

社ニモ種々アリ株金差入會社ニ於テハソノ社ニ入レタル金丈ケニテ濟ム

有名會社ニ於テハ銘々ノ身代ノ有ル丈ケ分散中ニ入ル

幼年ノモノハ商社ニ入ル權ナシト雖モ其父ニ於テ既ニ社ニ入りテ後死去シタル時ハ其子ソノ相續人トナルニ付テ社中ニ入り居ルナリ元ヨリ幼年ニテ入社スルコトハ出來サルナリ

商社ニ入ルニ銘々差入レタル動產不動産又ハソノ社ノ金ニテ買得ルモノハ皆其商社ノ所有ナリ

ソノ義務ハ如何ナルモノト云フキハ動ク者ナリ故ニ自己ノ物トナスハソノ分前金丈ケナリ

法律上ニ於テ何故ニ民事ノ會社ト商業ノ會社ト如此區別ヲ立テタ

ルヤトイハ、ソノ商社ト取引スルモノニ於テ十分償ナルモノトシテ信用セシムル爲メニ立テタルモノ故社外銘々ノ貸シ金アル者ヨリ其社へ掛リ取ルヲハ出來サル爲メニ爲シタルナリ然レモ民法五百二十九條ニ云フ如クソノ社ヲ解クトキハ其所有ノ權ハ全ク消滅スルナリ本條ニ基ツキ説ク會社ノ存續スル迄トナスキハ銘々ソノ金ヲ持チ去ルナリソレカ爲メ社金ト私金ト混淆シテ社ト引合タルモノ、迷惑トナル故ニ法律上ニ於テ總勘定ノ濟ム迄ハ會社ノ存續スルモノト見做シテ其社ニ呼出狀ヲ送達スルナリ此事ニ付テ議論アリ前文ノ通り會社ニ商事ト民事トノ別アレハ今之レチ行フニ商事ノ方ニ從ハン歟民事ノ方ニ從ハン歟

民事ノ會社ニ於テソノ家ヲ立ツルニソノ家ハ誰ニ屬スルヤト云ヘハ其社中ノ各人ニ屬ス尤モ出金高丈ケツ、屬スルナリ故ニ右會社ノ一人ニ於テ分散トナルトキハソノ高丈ケ即チ分散中ニ入ル

佛國ニ於テ民事ノ會社モ全ク商社ノ如クスヘシトノ論アレモ立法官ニテ未ダ其論ニ從ハス民事會社ノ不都合ナルヲハ社中ノ一人分散シタルトキハソノ社中ノ關係トナリ迷惑ヲ蒙ムルナリ委シキハ會社規則ヲ見ヘシ古ヘハ社ヲ無形人ト見做スヲチ知ラス其民事商事ノ社ハアリタレモ總テ有形人ヲ以テ取扱ヒタリ然ルニ革命後稍ヤク商社ノミ無形人トナスヲ論シ出シタリ農業會社ニ於テ無形人トナサハソノ中ノ一人借金スルニ土地ハ其

社ノモノニテ動カスヲ得ス不都合ナルヘシトノ説アレ共無形人ノ方都合ヨロシソノ人ノ爲メニハ分前金丈ケテ自由ニシテ土地ハ動カスヲ得サラシムレハナリ

第十號 明治七年五月二十五日

第六十九條 第六項ノ餘論

此第六項設立宜シカラス第一句誰レカ防クト云フヲナシ第二句ハ場所モ人モ分明ナレトモ第一句ハ場所丈ケ有ツテソノ人チ言ハス凡ソ會所ノアル商社ニハ必ラス支配人ハアルモノナリ故コソノ支配人ニ渡ス可シト記セサルチ得スソノ會所ノナキキハ銘々支配人ナリ誰ニ渡シタリトモ苦シカラス前文ニ誰レト人チ指シテ書サルハ書キ落シナリ故ニ又ハ支配人ニト書入ヘシ

前コ説キタル如ク使更途中ニテ被告人ヘ達タルトキハ途中ニテ渡シテモ宜シト故ヘニ支配人ニ途中ニテ渡シテモ宜シトス會所ナレハ誰レニテモ渡シテ苦シカラス但シ支配人ノ宅ヘハ送達スルヲチ得ス

第七 家資分散人ノ連結セシ債主チ呼出ス時ハ其管理者又ハ其住所ニ呼出狀チ送達ス可シ

此第六第七ハ取分ケ商人ニ係ルナリ右ニ付キ少シク其分散ノ仕方ヲ談セン
分散トハ拂ヒノ止マリタリト云フ迄ニテ到底行キ盡キタリト云フニハアラスソノ譯ハ人ニ拂フヲ能ハサルトモ亦人ヨリ取ルモノナキトハ云フ可カラス
商人ニテハ商事ニカ、ル義務モアレハ民事ニカ、ル義務モアリ故

其拂ノ差支タル旨ヲ裁判所へ自カラ届出ルニ出入帳ノ如キ差別
 ニ屬スル書類ヲ一切添テ出ス
 萬一右商人ニテ右仕分ノ書類ヲ出サ、ルキハ債主ヨリ届出ツ其時
 ハ過失分散人トナリ罪ヲ得ル銘々勝手ニ分散人ト云フコト能ハス
 裁判所ニテソノ差引出入ヲ取調ヘタル上ニテ分散ノ形狀アルキハ
 其方ハ分散ノ形狀アリト言渡ナリ
 右分散ノ形狀アリテ届出タル上彌分散人ト言渡サル、迄ハ自カラ
 其財産ヲ運用シテ可ナリト雖モ言渡サレタル上ニハ監財人カ立チ
 本人ハ自カラ之レヲ運用スルヲ能ハス
 右ノ分界ニテソノ人ノ權利モ右ノ如違フナリ届出タルヨリ言渡サ
 ル、迄ハ凡ソ三日位ナリ
 監財人ハ分散人ノ爲メノミニアラズ債主ノ爲メニモ設ケ在ルナリ

此監財人ハ分散人ト債主トノ間ニアリテ雙方ノ名代トナルナリ
 分散言渡シノ濟ミタル上ニ三ツノ事アリソノ事ハ一二三トツ、ク
 一モアリ又一又ハ二又ハ二三又三ニテ濟ムヲモアリ
 第一ノ一ハ「コンコルダ」ト云ヒテ衆債打寄り相談ノ上約束トナル
 マテノ一事
 右打寄相談チナス一ハ雙方ノ爲メニナルヲユヘニ望ムヲナリ
 右「コンコルダ」ハ債主打寄約束チナス所以勸解ノ如キモノナリ
 ソノ打寄ルトキニ分散人ニテ分散ニ至ル次第ヲ述ルニ財主ニテ分
 散人ニ於テ廉恥アルカ又ハ才能アルカ又ハ拂方人ヨリ得ヘキ金額
 ヨリ多クアルトキハ分散人ヲ引立ル相談チナス但シ前文ニ反シタ
 ルモノ等ノ節ハ直チニ分散スルヲナリ
 又自分不束ナルヲナクシテ人ノ爲メニ分散トナルヲアリタトヘハ

甲ニ金ヲ借シ置クニ甲ヨリ乙ニ金ヲ借シ右乙ニテ分散トナル爲メ
 ニ債主分散トナルコトアリソノ時ハ債主ニテ甲ノ立行様ニ世話ヲナ
 シテ遣ルコトアリ
 分散トナルトキハ必ラス監財人財産目録ヲ作ルヘシソノ人物ノ儘
 カナルモノナレハ監財人ニテ衆債主ヘ對シ全額ノ二割ヲ拂ヒ其餘
 ハ年賦ニセント云フトキ衆債主ニテ分散人ハ不人物ナリ故ニ半高
 ナ取り其半高ハ見切ラント云フコトモアリ
 以上ハ分散人ヨリ品數ヲ申立ルニ監財人ニテ債主ヘ對シ發言ヲナ
 シテ品ハ何々有之此上負債ハ年賦等ニシテ本人ノ立行様ニシテ吳
 レヨト云フコトアリ
 衆債主ニテ分散人ヨリ申立タルコトク或ハ慾アリ又ハ強情等ニテ
 同意スルコト能ハサルアリ故ニ法律上ニテモ必ラス同意セヨトハナ

シタトヘハ債主二十人アラハ十一人同意ナレハヨシ借金高ノ四分
 ノ三丈ケ同意ナレハヨシ右ノ通り人ノ數ト金ノ高ト揃ハサレハ宜
 シカラス

通常ノコトナラハ人ノ數衆キ方ヲ取ルナレハ金ノ高ト人ノ數ト兩方
 ナ合セテ言ヒタルハ注意シタルコトナルヘシ
 如シ人ノ衆キ丈ケヲ取ラハ少數ヲ借シタルモノ丈揃ヒテ多數ヲ借
 シタルモノ、迷惑トナルナリ如シ金高丈ケニテ極メタラハ多數ヲ
 借シタルモノ二人位ニテ決スレハ少數ヲ借シタルモノ、迷惑トナ
 ル

右佛ニテ立タル法ナレハ當今ハ各國ニテモ右ニ照準シタル法アリ
 民事ニ於テハ絶テ右等ノ事無之商事ハ格別ナリ
 或ハ二分トカ半分トカ約束カ付キ一應相濟ニ自分ノ業ヲ爲シテ居

ルニ再ヒ不束ニテ身代ヲ減スルキ前債主へ返スへキ約束ノ金額ヲ減セサル様法律ヲ以テ定メアルナリ

此者ニテ更ニ分散トナルキニ前債主アル上更ニ後債主ノ出来タルトキハ如何

ソノ時ニハ分散人ニ不動産アルキハ法律ニテ前債主へノ引當ト見做シ後債主ニテハ右へ手ヲ付ルヲ能ハス

如シ不動産ナケレハ約束證印ノキニ保證人ヲ立ツルヲアリ

ソノ分散人初メハ種々ノモノヲ賣リタリトモ而後ノ商賣ニ付テハ債主ヨリ制限ヲ立ツルヲアリ 外國等へ行キ商スルトキハ何様ノ

ノキニ定ムルコトナリ

未タ分散ヲナサ、ル前ニタトへハ外國人ト約束ヲナシ置キ其約束法ニ適シタルモノニテ改ムルヲノ出来サルトキハ即チ約束ノ通り

取引ヲナサシムルナリ

ソノ後再ヒ分散トナリタルトキハ過失分散人トナリテ輕罪ヲ受ク

ルナリ
ソノ外國人ト約シタル爲メニ潰レルモ別人ト約シタル爲ナリトモ再ヒ潰レタルトキハ廉耻面目ニ關スルユヘニ刑人トナリ入獄ヲ命セラル、ナリタトヒ法律ニ於テ罰スルトモ「コンコルダ」ヲナスハ二度モ三度モ差支無之

ソノ情ニヨリ罰セサルコトモアリ二度モ三度モ約束ヲ破ルユヘ氣ヲ付ケル爲メニ罰スルナリ

「コンコルダ」ハ裁判官ニテ言渡スカ

「コンコルダ」ハ未タ裁判官へハ持出サス

右ハ約束シタルヲ裁判所へ届ケ出ルカ

其「コンコルダ」調フタル上ニテ商法裁判所へ出スソノトキ裁判所ニ宜シト書テ渡ス

此場合ニ於テ不都合ノトキハ裁判所ニテ聞濟ムヲ肯ンセサルヲモアリ

二度メ三度メニ至リテハ裁判所ニテ決シテ肯セス

最初ノ債主ハ不動産モアリ又證人モアルユヘ多分ハ損ニナラス

不動産アレハ最初ノ債主ノ損ニハナラスト雖モ萬一無之時ハ證人アリ

既ニ法律上ニテ引當ト見做スユヘ不動産ニ於テハ「コンコルダ」ニ入ルニ及ハス

民事ニテハ何ノ故ニ「コンコルダ」ヲ爲サ、ルヤ

民事ハ活計ノ爲メ計リナリ故ニ直チニソノ財産ヲ取ルノミ

商事ナレハ利ヲ得ルノ道アルユヘ此ノ如キヲチナシ大抵ノ「ハ押付ル」ヲモアルナリ

民事ノ分散ニ於テモ時ニヨリ相談スル「ハモアレ」モ銘々ノ勝手自由ナリ

既ニ裁判所ニテモ聞濟ス約束ノ調フタル上ニソノ年賦第一ノ期ニ至リ約ニ違ヒ拂ハサレハソノ廉ニテ右ハ消滅スルナリ

萬一「コンコルダ」ノ出来タル上ニ詐僞分散ナル「ハ」ノ發覺シタルトキハソノ一事ヲ以テ取消トナル

元ヨリ詐僞ナル「ハ」ヲ知リタルトキハ「コンコルダ」ニハナラス故ニ「コンコルダ」ヲナシタル日ヨリ消滅スルナリ

分散言渡ヨリ「コンコルダ」ニ至ルマテノ間ニ訴ヘノ起ル「ハ」アレハソノ時ハ分散人ヲ相手取ル「ハ」能ハス監財人ヲ相手取ルナリ

萬二「コンコルダ」ノ調ノハサルトキ又調ヒタリトモ詐偽等ノ知レ
 テ裁判所ニテ肯ンセサルトキハ第二ノ事ニ移ルナリ
 今迄ノ間ハ別ニ名目ナシ之レヨリ後ノ事ハ「ユタデユニラ」ト云フ
 人ノ聚マリタルト云フ義ナリ以下ハ分配會計ノ「」ニ至ルナリソノ
 財産分配出入等ヲ仕分ケスルナリ
 ソノ間ニハ監財人居リテ受取渡シヲナス
 一箇肝要ナル事ヲ云ハン

分散人ノ商物澤山アルニ一時ニ賣レハ下直ナリ故ニ監財人ニテ此
 品ヲ賣リ切ルマテハ分散人ニアラサル分ニナシ度ト願フトキ之レ
 ナ許ス「」アリソノ時ハ衆債主打寄リテ商ヒスルモノト見做スナリ」
 タトヘハ一ツノ製造場アラ「」ニ澤山ノ品物ヲ一時ニ賣レハ下直ナ
 リソノ時分散人ニテハ早ク片付ケ度ト思フナレモ債主ニテ監財人

ノ言ヲ聞キ尤ト思フキハ相談ヲナシテ開店シテソロ々々ト賣ル「」
 モアリ

商賣ノ續クト續カサルトノ見定メハ甚タ難シ故ニ衆債主ニテ相談
 ナナスナリ

ソノ相談ノ時ハ人ノ數モ金ノ高モ四分ノ三ニ至ラサル可カラス
 最
 ヨリ人ノ數ヲ
 多クスルナリ

此相談ニ至リテハ初メヨリ一層重クナルユヘナリ

此相談ハ不意ノ「」ナリ元ト債主ノ集會ハ品ヲ取調ヘ配分セントノ
 爲メナリ然ルニソノ時ニソロ々々賣ルノ相談トナルユヘナリ

右等ノ場合ニテ當人ハ全ク關セスヤ又ハ監財人ニテ當人ニ代リテ
 申立ルヤ

第二ノ事ハ全ク監財人ニテナスナリ第一ノ事ノ時ハ當人モ頭ヲ出

スナリ此監財人ハ則チ商人ニテ當人ヨリハ立派ニ仕分ノ出來ルモノナリ

如シ相談調フテ引續ク商ヒノ時ハ裁判所ニテモ關スレヒ彌分散トナルトキハ裁判所ニテハ一切關セス

裁判所ニテハ相談ノ出來タル上ニテ聞濟ムト聞濟マサルニアリ更ニ餘論ヲ陳ヘントス未タ知ラス緊要ナリヤ否

一事ニ注意セサルヘカラサルコトアリタトヘハ十五年專賣免許ヲ得タルモノソノ年限中ニ分散人トナリタルトキソノ十五年間專賣ノ權ヲ得セシムヘキカ又ハ製造品ノ庫中ニアル丈ケテ賣ラシムヘキヤ右ハ十五年間ハ專賣ヲナスヲ得ル故ニ引續製造苦シカラス
 タトヘハ日本ニテ桑ヲ植ヘ製絲ヲナサントスルコソノ業ノ半ハニ至リ潰レタルニ債主ニテソノ資本トナルヘキ諸品アルニ於テハ後

來ソノ業モツ、キ金モ取レルト見込ミ債主ニテ承知シテ業ヲナサシムルニ數年ノ後負債ヲ消却スルトキハ終ニ分散セスシテ止ムコトアリ 此項第一ノ事「コンコルダ」

「1」ノ「1」ニ基ツキテ云フ
 監財人ニテ支配スル中ニソノ監財人モ潰レテ再ヒ分散スルトキハ監財人ニテ分散トナルナリ

初相談ノ時四分ノ三ト承知スル人ニテソノ餘ノ不承知ノ人ハ再度分散ノ損ハ受ケス四分ノ三ノ承知セシ人ニ平均ヲ掛ケテ損ヲナサシム

以上二項第二ノ事「エターデユニオン」ノ「1」ニ基ツキテ云フ

專賣中他人ニテ右ヨリ一層上ヘノ發明ヲナストキハ此專賣ハ衰微シテ賣レサルアリ

專賣中ソノ人ニアラサレハ出來サルモノアルヘシ右等ノ人ノ分散

トナリタルトキハ如何スルヤ

ソノ時ハ一箇ノ職人トナリ又ハ製造所ノ雇人トナル

若シ此後商法ノ續カサルト見留メタルトキハ製シ出シタル品ヲ糶賣シ併セテ專賣免許ヲモ受クルコアリ

第三ノ事

第三ニ於テ分配ヲ濟マシ残り高何程ト書付ケテ作り夫々債主へ渡シ濟ミトナル此所ニテ監財人ノ職ハ終ル

第三ノ事ニ於テハ瑣事ナレモ之レチ一ツノ事トナシ三ツノ事ニ分カタサルヲ得ス何トナレハ分散人ニテ身代ヲ取り直シタル時ハ債主銘々自カラ行テ取ルナリ故ニ残り高ノ書付ハ肝要ナリ三ノケ條畢
ソノ後銘々ニテ取ル節ニ至リテハ取り勝チナリ故ニ中ニハ取ルコ

ノ出來サル債主モアリ

分散シテ一品モナク監財人ヲ立ツルコモ出來サルコアリソノ時ハ銘々ヨリ借シタル金ト見切ルナリソノ名ヲ入額ノ不充分ノ結局

チール、ブール、アンシト云フナリ

ヒサン、デアクテースト云フナリ

分散人富家ヲ相續スルトキハ債主ニテ銘々行テ取ル
分散人ノ跡ハ相續スルモノ絶テアルコトナシ若シ相續スレハ債主ニテソノ相續人へ係ルナリ

第十一號 明治七年五月三十日

今日ハ呼出狀ノ分ハ説キ盡サントスソノ後ハ裁判言渡ト欠席裁判ノコトヲ説キ次ヒテ控訴ノ事ヲ説カントス

訴訟法中ニ首タル訴訟ト添タル訴訟トアリ先ツ首タル分ヲ説キ次

イテ添タル訴訟ヲ説カントス 勸解ノコト 呼出ノコト 裁判言渡ノ
 コト 欠席裁判ノコト 故障ヲ申立ルコト 別人ヨリ故障ヲ申立ルコト
 控訴ノコト 大審院へ控訴ノコト ト順次ニ説カントス
 過日家資分散ノコトニ付テ三ツノ事アルコトヲ説キタリソノ「コンコル
 ダー」コナルノ間ト云フコトハ此法律書ニ無之先ツ之レヲ説カン
 訴訟法ハ一千八百六年ニ編集シ一千八百七年ヨリ施行セシモノナ
 リ
 商法ハ一千八百八年ニ編成セシモノナリ依テ此「コンコルダール」ハ訴
 訟法ニナキナリ
 第六十九條 第七ハ六ヶ敷事無之
 第七 家資分散人ノ連結セシ債主ヲ呼出ス時ハ其管理者又ハ其生所
 ニ呼出狀ヲ送達スヘシ

商法ニハ「コンコルダール」ニナル間ノ手續有之 商法第四百九十
 連結セストモ即チ監財人ヲ呼出スヤ
 債主連結セシテ只一人ナルコトハ殆ントナキコトナリ
 第八 佛蘭西國內ニ分明ナル住所アラサル者ヲ呼出ス時ハ其寄居ス
 ル場所ニ呼出狀ヲ送達ス可シ若シ其寄居スル場所ノ知レサル時ハ訴訟
 チ審判ス可キ裁判所ノ訟庭最大ノ門扉ニ呼出狀ノ副本一通ヲ貼附シ
 又一通ヲ檢事ニ送達シ檢事其正本ニ檢印ヲナス可シ
 此一項中ニ甚難事アリ原告人ニテ何レノ裁判所へ訴ヘテ可然ヤチ
 見出スコト能ハス
 物件ニ付テノ訴訟ナレハソノ所在ノ地ノ裁判所へ訴フルノ原則ナ
 ルニハ面倒ナルコトハ無之
 佛國ニ於テモ住所住居ノ知レサルニ付キ使吏ニテ間違アルコト時々

有之原告人ノ申立ニヨリ直チニ執行フユヘナリ
 ソノ住所住居ヲ穿索スレハ知ルヘキモノヲモ粗忽ニ執行ツテ欠席
 裁判トナリソノ後被告人ノ住所住居ノ知ルヘキ確證アルトキハ使
 吏ハ相當ノ罰ヲ受ケソノ裁判入費ハ原告人ヨリ償却ス
 タトヘハ東京ニ住スルモノアリ東京元ヨリ廣シ容易ニ尋子得ヘキ
 ニアラスソノ時ハ東京府並ニ各區ノ役所等ニ依頼シテ之レヲ尋子
 彌知レサルト定マリタル上ニテ執行ス
 タトヘハ絹商麵包店又ハ人足等夫々ソノ同業ノモノハ勿論穿索ス
 ヘシ

此穿索ハ使吏並ニ原告人ニテナス

タトヘハ旅店ニアルモノ又ハ一時下宿等ノモノト契約ヲナスモノ
 ハソノ旅店並ニ下宿ノ主人ニ訪ヒ行ク先キノ知レサルトキハソノ

マ、執行フテ苦シカラス右ハ東京ニ住居ヲ定メサルモノナレハナ
 リ

タトヘハ辻輕業師又ハ田舎芝居等ノモノ一時東京ニ出テ興行シタ
 ルトキ等ハ直チニ執行苦シカラス尤モ一應興行セシ隣家ヲ尋ヌル
 ナリ右等ハ元ヨリ東京ニ住居ノ定メラサルモノナレハナリ

佛國ニ於テ住所ノ定メラサル婦人アリ借金ノタマリタレハ直チニ
 他ヘ轉スソノ宿シタル内ヲ尋子テ得サレハソノマ、執行スルナリ
 但有名美人ノ如キハ格別ニシテ尋子得ルコトモアルト雖モ尋子得ル
 コト甚ダ少シ

右等ニ於テモ粗忽ニナスヘカラサルモノナリ故ニ法律ニ於テ保護
 シテ欠席裁判トナラサル様ニ注意スルナリ

前文ノ如キ場合ニ於テ呼出シテ知ラサル爲メニ欠席裁判トナリタ

リトモソノ執行ノ以前ニ知得スルトキハ故障ヲ申立ツルヲ得ルナリ

タトヒ欠席裁判ノ言渡ヲナストモ物品ナケレハ執行フヲ能ハスト雖モ萬一何レヨリカ物品ヲ尋子出ストキハ執行フヲ得ルナリソノ執行マテニ被告人ニテ欠席裁判トナリタルヲ知得スルトキハ即チ故障ヲ申立ルヲ得ル

到底現場ソノ人ヲ見出サ、レハ執行フヲ得ス

被告人ニ於テハソノ執行ヲナス迄ニ故障ヲ申立ツルナリ

ソノ訴訟入費ハ執行マテハ出サ、ルナリ

右ノ場合ニ於テ被告人ニテ他人へ金ヲ貸シタルモノアルトキハ原告人ヨリソノ借り主へ斷ハリソノ金ヲ差押ユルヲアリ

欠席裁判トナリタルトキ原告人ニテソノ人ノ貸シ金アルヲ知リ

タルトキハ法律上ニ於テ取押ノ手續ヲナシタル上八日間門扉ニ貼スソノ後ニハ原告人ニテソノ金ヲ取ルナリ

右ノ執行済ミタル後被告人ニテ何レノ所ロニ住居スルト云フヲノ證ヲ立テ全ク原告人ノ粗漏且故意ヨリ出テタルトキハソノ入費ハ使吏ニテ出スヤ又ハ原告人ニテ出スヤ

ソノ時ハ被告人ニテ原告人ニ掛ルナリソノ手續キハ一席ノ咄ニ盡スヲ能ハス

ソノ時ニ於テ原告人ノ偽計ヨリ成リ使吏モ粗忽ニテ遂ニ前文ノ場ニ至リ故障ノ日限モ過キ上告ノ日限モ済ミタルトキハ別ニ非常ノ道ヲ以テ故障ヲ申立ルヲアリ之レヲオワイエキスタラナルギ子一ルト云フ

欠席裁判トナリタル後被告人出テソノ宿所等容易ニ尋子得ヘキヲ

原告人並ニ使吏探索セサルノ證アルトキハ原告人ニ掛リ償金ヲ求ムルコトモアリ併シ此事甚稀レナリ
 以下本條ニ基ツキ何レノ裁判所へ出ツヘキヤヲ説ク
 人權ノコトニ付テハ原告人ノ住所ノ裁判所へ出ツヘキハ原則ナリト雖ヒソノ人ノ住所住居ノ知レサルニ於テハ何レノ裁判所何レノ檢事へ出スヘキヤ
 日本人ニテ佛國へ行キ佛國ニテ契約ヲナシソノ後日本人ハ歸朝セシトキハ佛國ニテ裁判ヲナスノ權アリト雖ヒ三百餘ヶ所ノ下等裁判所アリ何レノ裁判所ニテ可ナルヤ
 一説ニハ巴里ニテ契約ヲナシタルトキハ巴里ノ裁判所ニテ可然ト云フ説アリ然レトモ原告被告人トモ旅行中ニ契約シタルトキハ再ヒソノ地へ行カサルヲ得ス難澁ナリ又不慥ナリ

時ニヨリ瀛車中ニテノ契約等ハ何トスヘキヤ一二語中既ニ二三里モ行キ過クルナリ
 契約ヲ爲シタル地トスルトキハ原告被告トモソノ地ニ居ラス且原告人ハ入費ヲ掛ケソノ地へ行カサルヲ得ス
 又一説ニハ被告人ノ住所ノ知レサルトキハ原告人ノ住所ノ裁判ト云フ説アリ
 此説可ナリトス被告人ノ住所ノ裁判所ハ原則ナレヒ何レニシテモ一方ニテハ入費ヲ掛ケサルヲ得サルモノナルユヘ雙方ニテ入費ヲ掛ルヨリハ寧ロ一方ニ掛ケル方宜シトス
 法理ヨリ言ヘハ後説可ナリ實事ヨリ言ヘハ何レニテモ可ナリ何トナレハ契約ハ必ラス原告人ノ住所へ來リテ爲スモノナリ故ニ二説トモニ行ハレテ差支ナシ

一説ニ確定セス實況ニヨリ二説ノ内便利ナル方ヲ用ユルトシテハ如何

二説ノ内何レニテモ原告人ノ擇ミニ依テ爲スト定ムルトキハ可ナリ

現地ハ定マリナシ裁判官ノ見込ニ任カス

外ニ數説アリ

萬一甲「ウキンナ」ニアリ巴里へ書翰ヲ以テ金ヲ借リタルトキハソノ

契約ハ何レノ地ニテ成リタルヤ

右ハ貸シタル地ニテ出來タルニアラス兩方地ニテ出來タルモノナ

リ何トナレハ契約ハ雙方承諾シテ成ルモノナレハナリ

抑金銀等ノ貸借ハ承諾ノミニテハ契約ノ成ルモノニアラス貸主ヨ

リ金ヲ借主へ送達セサレハ契約ニハナラサルナリ

タトへハ佛人ト外國人ト結ヒタル契約ニ付テノ訴訟ハ巴里ニテ裁

判ヲナスコトハ民法十四條ニ正條アリ

故ニ前文ノ場合ニ於テ「ウキンナ」ノ裁判所へ出ツルモノニアラス

故ニ原告人ノ住所ノ裁判所ト定マルナリ

若シ日本人佛ニアリ佛人ニ金ヲ借リタルコトニ付テノ訴訟ハ佛ニア

ル内ハソノ住居ノ裁判所ニ訴フルナリソノ日本人既ニ歸朝セシ上

ニ訴フルトキハ日本ノ法律改正ナリタル上ハ日本ノ裁判所へ訴フ

ヘシ現今ノ法律ニ

第九 佛蘭西本國外ノ佛蘭西領地ニ居住スル者又ハ外國ニ居住スル

者ヲ呼出ス時ハ訴訟ヲ審判スル裁判所ノ檢事ニ呼出狀ヲ送達シソノ

官吏其正本ニ檢印ヲ爲シテ其副本ヲ本國外ノ領地ニ居住スル者ニ付

テハ海軍事務宰相ニ送達シ外國ニ居住スル者ニ付テハ外國事務宰相

ニ送達ス可シ

佛ノ領地ナレト大陸外ニアルノ佛領地ヲ云即チ「アルゼリ、サイゴン」等之レナリ

此項ノ如キ場合ニ於テハ檢事ニ呼出狀ヲ送達ス

一葉ハ檢事ノ手ニアリ一葉ハ兩宰相ノ内ヨリ被告人ニ送達ス

物權ナレハ佛國內ニテ裁判スルコトモアルヘシ

若シ人權ナレハソノ人ノ住所ノ裁判所ヘ訴ヘサルヘカラス

コヽニ難件アリ「サイゴン」ニ居ル人ナラハ海軍宰相ヘ送ルニ及ハス

即チ「サイゴン」ヘ行き直チニソノ地ノ裁判所ヘ訴フルナリ

佛ノ飛脚船ニテ現場「サイゴン」ニテ訴訟ヲナセリ然ルニソノ被告人

ヲ呼出スニ佛國ヨリ呼出狀ヲ送ルコラス直チニソノ地ニテ呼出

狀ヲ送ルナリ

併シ被告人數人アルトキハ各地ノ人一ノ裁判所ニ揃ハサルヲ得サ

ルヲアリタトヘハ被告人ノ内一人巴里府ニアリ其餘人屬地又ハ外國ニアル時ハ原告人ノ撰ニヨリ巴里府ノ裁判所ニ訴出スソノ時ハ此條ヲ用ヒ海軍宰相又外務宰相ヘ送達シテ夫々其呼出狀ヲ届ケシム

目下「ポアソナード」日本ニアリ被告人トナリタルトキハ外務宰相ヨリ日本ヘ送達スルナリ

萬一巴里人「サイゴン」ヘ遊ヒニ行キタルトキ巴里ニ家族アリソノ時

ニモ「サイゴン」ヘ呼出狀ヲ送達スヘキヤ

一時遊ヒニ行キタルトキハ巴里ノ住所ヘ送達ス尤モ親族朋友等ニ

テ猶豫ヲ願フナリ

併シ至急ノコトハ猶豫スヘカラス代理アレハ代理又ハ朋友ニテ防クナリ

萬一事件ニヨリ本人ニアラサレハ能ハサルコトアルトキハ猶豫ヲ願フナリ猶豫ヲ願ヒタリトモ原告人ニテ承知セサルコトアリ然レトモ本人ノ未ダ知ラサルトキハ欠席裁判スルコト能ハス日本ニ雇ハレタル等ニテ歸ルコト能ハサルトキハ如何スヘキヤ代理ヲ立テ置クナリ佛國ニ於テハ一旦暇ヲ政府ヨリ受ケテ外國ヘ行キタルモノハ訴訟ノ爲メニ歸國セヨト云フ權ハ無之但シソノ期限外ニ政府ノ替ハリタルトキハ格別ナリトス併シ刑事ニ於テハソノ政府ヘ呼ヒ戻シテ頼ムコトアリ「ボアソナード」ハ官員ニテ三ケ年間日本ニ來ルモノユヘ三年內ハ呼ヒ返スコト能ハス平人ナレハ一生モ呼ヒ返スコト能ハス

官員ハソノ限內歸ラサルモ自由ナリト雖モソノ官ヲ失フ三年ノ期限外更ニ滯留ヲナシ度トキハ本國政府ヘ願フナリ萬一允許ナキトキハ官ヲ免セラレ度ト云フマテナリ

第十二號 明治七年六月五日

第七十條 前二條ニ定メタル規則ニ循ハサルニ於テハソノ呼出狀ノ効ナカルヘシ

過日來說キタル如ク呼出狀ノ効ノアルトナキトニ付テハ正條中ニ効ナシト云ハサルモノハ効ナキモノトスルニアラサルナリ此條ニ於テ別段ニ効ナキコト一條ニ立テタルモノハ元ヨリ前二條ノ每項ニ入ルヘキモノナレモ餘リ繁雜ナルユヘ總括シテ簡畧ニシタルモノナリ

呼出狀ノ効ナキコトハ第六十一條第六十四條第六十五條第六十六條
 第六十八條第六十九條中ノ諸件欠ケタルトキナリ
 祭日ニ出ス呼出狀又ハ價ヲ記セサル呼出狀ハ効ナキニハアラス過
 日説キタル通りナリ
 使吏ノ錯誤ニテ管轄違ヒノ裁判所へ呼出狀ヲ以テ被告人ヲ呼出ス
 コアリ
 タトヘハ人權ニテ被告人住所ノ裁判所ニ呼出スヘキヲ使吏ニテ取
 違へ物件所在ノ裁判所ニ呼出スコアリ
 之等ハ取消トハナラス何トナレハソノ委細ノコトハ裁判所ニアラサ
 レハ知ルコトヲ得サレハナリソノ時ハ裁判官ニテ何レノ裁判所ニ出
 ツヘシト指示スコトモアリ又被告人ニテ自カラ此裁判所ニ出ツヘキ
 ニアラスト申述フルコトモアリ故ニ被告人ハ必ラス呼出サレタル裁

判所ニ一應出席セサルコトヲ得ス
 里數ノ距離又ハ呼出ノ期限ヲ間違へタルトモ亦取消トハナラス被
 告人ニテソノ間違ヒヲ申述へ相當ノ日ニ出ツヘシト届ケ置ク時ハ
 夫レニテ濟ムナリ
 第七十一條第七十二條ハ過日説キタリ此ニ費セス
 第七十一條 使吏ノ過失ニテ呼出狀ノ効ナキニ至リシ時ハ其使吏呼
 出狀送達ノ謝金ヲ失ヒ及ヒ取消シトナリタル訴訟ノ費用ヲ償ヒ且其
 時ノ模様ニ因リ原告人ニソノ損害ノ償ヲナスヘシ
 右ハ全ク使吏ノ過失ニ屬スルコトヲ説ク此ノ過チハ元ト小ナルモノ
 ナレヒ亦大ナルコトモアリ即チ過日説キタル使吏ノ罰金及ヒ「プレス
 クリプション」ノコトヲ指シテ云フナリ
 第七十二條 佛蘭西國內ニ住居スル者ニ付テハ呼出狀ヲ送達シタル

ヨリ裁判所ニ出席スルニ至ル迄ノ定期ヲ八日トス
迅速ニ審判ヲナスヘキ場合ニ於テハ裁判所ノ上席人原告人ノ別段ノ
願ニ因リ定期ヨリモ更ニ速ニ被告人ヲ呼出スヲ許ルスノ言渡ヲナ
シ得ヘシ

此條モ過日説キタリ前項ハ呼出ノ定期ヲ八日トスル迄ナリ後項ハ
至急ノ時裁判官ノ許シヲ得ルヲ要スル迄ナリ

第七十三條 佛蘭西本國外ニ在ル者呼出ヲ受クル時ハソノ呼出ヲ受
ケタルヨリ裁判所ニ出席スルニ至ル迄ノ期限左ノ如シ

遠方ニ居ルモノハ出席期限ノ延ヒルヲ云フ

遠近ノヲニ付テハ日本ニテハ此ノ裏返シニ法ヲ立ツルハ夫レニテ
可ナリ

佛ノ遠キ所ハ日本ノ近キ所ロナレハナリ

第一 「ユルス島」「アルセリー」「不列顛諸島」以太利佛蘭西ニ隣接シタル國
ニ在ル者ニ付テハ一月ノ時間

此ニ記スル所ノ地方ニ於テハ八日ノ代リニ一ヶ月ノ時間トス

普國ハ近時連邦トナリタリソノ國內ノ里數ヲ佛國ヨリ算スルトキ
ハ極メテ近キ隣國ト比スレハ里程ノ遠キ所モアレハ佛ト隣邦ナル
故ヲ以テ全國中都テ一ヶ月トス

若シ普コテオ、ストリヤヲ取り連邦トナサハタトヒソノ國廣大ナ
リト雖ヒ一邦トナル故ニソノ期限チ一ヶ月トスソノ中間ニ別國ナ
キユヘナリ

日本ヨリ云ハ、魯西亞モ亦一ヶ月トス可シ壤地隣接スレハナリ然
レ共魯ハ大國ナリ其歐洲ニ接スル所マテハ太々遠シ其期チ速ヘサ
ルヲ得ス

元來此期限ノ立テ方ハ不都合ナリ隣接ノ國ト云フモ皆近キ所ニア
ラス前項ノ通り隔遠ノ地方アリ

日本ヨリ亞米利加ハ假令對岸ノ國ト雖ヒソノ間ニ大洋ヲ隔テタル
ユヘニ隣接ニアラス

此項ニ「コルス」又ハ「英國」等ヲ入レタルモノハ其間海アレヒ接近ノ國
ナレハナリ

抑此法律ノ例ニ循ヒ距離ヲ以テ立ツルキハ公平ナルヘケレヒソノ
外國里數ニ至リテハ中々人々能ク知り得ルコニアラス故ニ大畧一
ヶ月又ハ何ヶ月ト定メタルナリ

遠方ニアルモノ呼出テ受タルキ巴里等ニソノ朋友アリテ事情ニヨ
リテハ日延ヲ願出ルコアリソノ時ハ裁判官ニテ拒ムコモアレヒ大
概ハ之レヲ許ス

一ヶ月ト記載スルハ被告人ノ手ニ呼出狀ノ落タル日ヨリ起算スル
●實地差支ニハ成ラサルナリソノ三十日間ニハ名代ヲ出ストモ
代書師ヲ雇フトモ充分ニ出來ルコナリ

極メテ遠方ナレハ外務卿ヨリ送達シソノ屬地ナレハ前ニ説キタル
通り海軍卿ヨリ送達スルコト故其送達ハソノ被告人アル地ノ全權公
使ニ達シ公使ヨリ岡士ヘ達シ岡士ヨリソノ當人ニ渡スコナレハソ
ノ送達モ不分明ナルコトナシ

公使ニ送ル呼出狀ハ即チ寫シナリ本書ハ通例裁判所ニアリ
今「ボアソナード」百カラ其送達ノ仕方ヲ考ヘ居ルナリソノ方宜シキ
ト思フナリ

何レノ國何レノ村町ニテモ經緯度中ニ總括セサル地方ハ之レナシ
ソノ經度ニ付テ幾日緯度ニ付テハ幾日ト起算スル法ナリ佛國ニテ

使吏ハ大抵度數位ハ知リ居ルヲコテ地圖ヲ見テ直チニ算チ立ルヲ
ヲ得ルヘシ

緯度一度ハ佛ニテ廿七八里ニナルナリ英ニテハ少シ寡ナカラシカ
故ニ一緯度毎ニ二日ヲ増スヲトナス經度モ亦然リ

佛國ニテ一「アルロンギスマン」ニ付キ八日ヲ此間名村ト問答アリ傍
ニ立ツル元ト立テソレヨリ一度ニ付テ三日トナシタラハ充分ナラ

カチ云フ

三日トナセハ三「ミリヤメートル」日本ノ七里半程毎ニ一日ノ割合ニ當ルナリ

日本ニ於テハ佛ト違ヒ未タ道路ノ便ナキ故別ニ猶豫ナカルヘカラ

ス

佛ニ於テモ古ヘハ三「ミリヤメートル」ナリ今ハ五「ミリヤメートル」ナ
リ千八百六十三年ノ改正ナリ

古ヘ訴訟法ヲ編成セシ頃ハ通信不便利ナリシ故ソノ里程ヲ短カク
定メタリ今ハ鐵道縱横甚タ便利ナルユヘニソノ里數ヲ増シタリ
凡ソ法律ハ開化ノ度ニ從ヒ變化スルモノニテソノ進歩ノ度ニ應シ
時々改正セサルヘカラストトヘハ旅行ヲ徒步ニテスル時代ハ一日
三「ミリヤメートル」モ近トセサレハ鐵道ノ便開クレハ一日五「ミリヤ
メートル」モ遠シトセス若シ此後空船ニテ往來スルニ至ラハ一日十
「ミリヤメートル」トシテモ可ナラン

第二 其他歐羅巴又ハ地中海ノ濱岸又ハ黑海ノ濱岸ニ於ケル國ニ在
ル者ニ付テハ二月ノ時間

歐羅巴トハ歐洲中ノ近國ヲ云ヒ又地中海ノ濱岸トハ「チユニス」エチ
プト等ノ地ヲ云ヒ又黑海濱岸トハ歐洲「トルコ」ノ北邊魯西亞ノ南邊
等ノ地ヲ總テ云フ

第三 歐羅巴外ニテ「マラツカ」ノ海峡ヨリ近ク又ハ「ホルン」岬ヨリ近キ地ニ在ル者ニ付テハ五月間

「ギブラルタル」ノ瀬戸ヲ過クレハ此中ニ入ル「マラツカ」^{ソント}「蘇門」^{アシアト}「ルコ」^{亞西}「カツプホルン」ヲ越ヘテハ此外ナリ但シ南「アメリカ」ノ海岸ハ總テ此中ニ入ル

此項ハ甚ク曖昧ナリ之レヲ以テ看ルトキハ「アフリカ」海岸ヨリ南「アメリカ」及ヒ北亞米利加ノ地モ皆此中ニ入ル

第四 「マラツカ」ノ海峡及「ソント」ノ海峡又ハ「ホルン」岬ヨリ遠キ國ニ在ル者ニ付テハ八月ノ時間

但シ海上戦争ノ時ハ海外ニ在ル者ノ爲メソノ定期ヲ倍ス可シ

「マラツカ」云々ト云フトキハ支那日本モ此中ニ入ル漫ニ廣クシテ的實ナラス故ニ經緯度ノ說然ル可シト思フナリ末文戰ノ節ハソノ期

限ヲ倍スルトアリ五ヶ月ハ十ヶ月トナリ八ヶ月ハ十六ヶ月トナル迄ナリ

第七十四條ノ佛蘭西國外ニ住所アル者佛蘭西ニ在ル時呼出テ受ケタルニ於テハ佛蘭西國內ニ住所アル者ト同一ノ定期内ニ出席スヘシ但シ別段ノ道理アリテ裁判所ニテソノ定期ヲ更ニ延シタル時ハ格別ナリトス

若シ佛國外ニ住所アルモノニテモ佛國內ニテ見當レハ本國ニ住所アルモノト同様ナリソノ時ハ被告人自身ハ外國ニ住居アルヲ以テ外國ヨリ呼出ス期限ニ出ツヘシト云フヲ得ス

以上ノ期限ハ之レヨリ短カクスルコトハ出來サレトモ裁判官ノ見込ニテ猶豫ヲ與フルコトハ出來ルナリ

原告人ヨリ日限ノ違算アルトキ被告人ニテ定期マテ出席セスシテ

可ナリト云フ時ハ出テスシテ可ナルヤ又ハ手數アリヤ
 ソノ違算ノ廉ヲ中立定期ニ出席ス可キ旨ヲ書翰ヲ以テ裁判所へ書
 キ送クルナリ
 タトヒ被告人ニテ届出テサルヒ元ヨリ裁判官ニテ呼出狀ヲ檢シ違
 算アルトキハ被告人ハ欠席裁判ニハセス定期マテハ待チ居ルナ
 リ

第七十四條餘論

「ブレスクリプション」三十年期限ノ終リタル後原告人ヨリ訴へタル
 トキ被告人ニテハ最早三十年期限終リタルニ付「ブレスクリプション」
 ノ權アルコトヲ申出ルナリ萬一之レヲ申出サレハ滿期ノ權ヲ失フ
 ナリ以テ相當ノ裁判ヲ受ケ更ニ勘定ヲ立テサル可カラスソノ然ル所
 以ハ治産ノ禁中又ハ幼年中等ハ三十年ノ期限ニ算入セストハハ

治産ノ禁ヲ免カレタルトキ又ハ丁年ニ至リタルトキヨリ再ヒ起算
 スルナリソレ等ノ差引ハ裁判官ハ知ラス故ニ必ラス其旨ヲ申出サ
 ルヘカラス

第七十五條以下

第七十五條以下裁判言渡マテハ甚長シ然レモソノ間ハ格別肝要ノ
 コトナシ仍テ大意ノミヲ説クヘシ裁判言渡ハ肝要ナルモノニ付之レ
 ナ委シク説カン

呼出狀中ニ日限八日ノ内ニ出席セサル可カラスト云フハ決シテ自
 分ノ休ヲ以テ裁判所ニ行クニハアラス代書人ヲ立ルコトナリ
 被告人呼出狀ヲ受クレハ右ノ日限中己レノ代書人ニ立テソノ代書
 人ニテ原告人ノ代書人ヘソノ趣ヲ云ヒ遣ハセハソレニテ足レリ之
 レヲ出席シタルト云フナリ

被告人ニテ手翰ヲ送ルニ及ハス代書師ヨリ手翰ヲ送クルナリ
 代書師ヨリ代書師へ手翰ヲ送ルニハ裁判席へ出ツル使吏ニテ送達
 シツノ賃ヲ取ル
 右八日ノ期限内ニ代書師ヲ立ツレヨリ十五日内ニ被告人ヨリ原告
 人へ答辨書ヲ遣ハスナリ第七十七條見合
 過日説キタル如ク訴訟ノ證據又ハ訴訟ノ目的トナルヲ書テ送ル
 ナリ之レモ代書師ニテ取扱ヒ本人ハ手ヲ付ケス
 被告人ヨリ答辨書ヲ送ルニ此金ハ既ニ拂ヒタリト云フトキハソノ
 受取書ヲ代書師ヨリ代書師へ送ルヲモアリ又送リテ不都合ナルト
 キハ被告人ノ代書師ノ書記局へ送り置キテ原告人ノ代書師ヨリ被
 告人ノ代書師ノ方ニ相談ニ來ルトキ之レニ示スヲモアリソレヨリ
 原告人ニテ八日内ニソノ答辨書ヲ出ス

元ヨリ原被告人ニテ答辨書ヲ出スモ出サ、ルモ勝手次第ナリ之レ
 ヲ出サ、ルキハ直ニ招書ヲ送りテ裁判ヲ乞フナリ

此章ハ此外格別肝要ナルコトナシ

第八十三條 左ノ訴訟ハ檢事ニ報告スヘシ

元ヨリ訴訟ハ私法ニテ人民保護ノ肝要ナルモノナリ故ニ檢事ソノ
 中へ立入り保護セサルヘカラサルコトアリ
 訴訟ハ一人々々ノ私事ナレトモ時ニヨリ一般ノ公益ニ關スルコトアリ
 ソノ時ハ檢事ソノ中ニ必ス立入ラサルヲ得スソノケ條ハコ、ニ掲
 ク

幼年治産ノ禁ヲ受ケシ人既ニ婚セシ婦等ノ事ニ付テハ檢事之レヲ
 保護セサルヲ得ス

第八十三條ノ第一項ヨリ五項マテハ公益ニ係ル第六七項ハ能力ノ

ナキモノニ係ル

而後項ヲ逐テ説カントス

第一 國ノ安寧ニ管シタル訴訟官府ニ管シタル訴訟官ニ屬シタル土地邑並ニ公舎ニ管シタル訴訟貧人ノ爲メ公ケニナシタル贈遺ニ管シタル訴訟

國ノ安寧ニ關シタル訴訟ハ人民ノ私益ト公益ニ係ルナリ

タトヘハ武器ヲ人民互ニ取扱フ之レ私益ナリ併シ武器ノ取扱ハ國ノ禁スルモノナルニ之レヲ取扱フハ則チ國ノ安寧ニカ、ル故則チ一般ノ公益ニ關スルナリ

此所原文宜シカラス

國ノ安寧ニ管スルト記スルハ物ニノミカ、ル文ナリ、ソレニテハ意セマシ譯文ニ於テハ物モ事モ包含スル文ナリ譯文ノ方宜シ

タトヘハ刑事ノ訴ヘアリ之レハ全ク國ノ安寧ノミナリ

此所ハ私益ヨリ出テ公益ニ觸レテ居ルモノナリ

日本ニ於テ未タ外國人一般ニ行ク能ハサル地アリ然ルニ日本人ニ於テ外國人ノ行クヲ得サル地ニ於テ約束スルコトアリ之レ二人ノ約束ト雖ヒ一般ニ關シ危キコト生スヘシ之レ私益ヨリ公益ニ關スルナリ政府ニ管シタル土地等ニ於テハ人民一般ノ訴訟ト同様ナリト雖ヒ此時ハ檢事立入ルナリ立入ルトハ必ス檢事ソノ事件ニ付意見ヲ述フルコト云以下准之

縣令ハ原告被告トナルト雖ヒ檢事立入ルナリ

邑ニ於テモ亦人民一般ト同シ邑モ人民モ害アリテハナラサル爲メニ檢事之レニ立入ル

公舎トハ貧院病院等ナリ之レ亦人民一般同様ノモノナリ之レニ管

スル訴訟ニハ檢事立入雙方ノ爲メニスルナリ
 人ノ死スルトキ貧人ノ爲メ公ケニ贈遺スルコトニ付キタル訴訟ニ於
 テハ、ソノ死スル人有餘ナクシテ親屬ノ爲メニナラサルカ、又ハ有餘
 アリテモ親屬ニテ渡サ、ル等貧人ノ爲メニナラサルカ、イツレ雙方
 ノ爲メニ檢事立入ルナリ
 此七項ハ檢事ノ義務ナリ
 ソノ他ハ此七項ノ後文ノ如ク檢事ヨリ立入ルコトモアリ又裁判官
 ヨリ立入レト云フコトモアリ
 裁判席ニハ檢事ハ必ス陪席スルナリ何トナレハ不意ニ立入ルヘキ
 事ノ生スルコトアリ、又民事ノ半ハヨリ刑事ノ起ルコトアリ、但シ裁判官
 ナ問ハス檢事ニテモ見込申
 立サルトキハ黙シテ止ムノミ
 獨逸ニテハ擔當ノ訴訟ニアラサレハ檢事ハ出席セス併シ出席セサ

第十三號 明治七年
 六月十日

第八十三條

第二 人ノ身上及ヒ後見ノ事ニ管シタル訴訟

此項ハ人ノ身上即チ身分證書ニ關スルコトナリ身ノ上ト云ヒタルノ
 ミニテハソノ意狹シト云フ説アリ
 「エタシビル」ニ關スルノ第一ハ人民死生ノコトニテソノ生レタルトキ
 一通ノ證書ヲ作り死シタルトキ又一通ヲ作ル
 ソノ「エタシビル」ノ争ヒハ何時ニ之レヲ作りタルカ又ソノ有ルカ無
 キカノコトヨリ起ル

ソノ第二ハ國ニ關係スルコトニテ佛カ英カヲ區別スル爲メナリ
 第三ハ年齢ニ關スルコトニテ第何年何月ニ生レタルコト付キソノ丁年
 カ幼年カヲ分明ニスル爲メナリ
 第四男女ノ區別ニテ何レノ國ニ於テモソノ權利ハ男女一樣ナラサ
 ルナリ
 第五人ノ生レタルトキヨリ無病ナル歟又ハ精神錯亂シタル歟ヲ記
 セサルヘカラス
 第六親ト見認メ子ト見認メルコトヲソノ私生公生ニ關セス父ハ誰
 レ母ハ誰レト記載スルコトナリ
 第七相當ノ婚姻シタル人ノ子カ又ハ相當ノ婚姻セサル人ノ子カヲ
 記載スルコトナリ
 以上七件ハ「エタシビル」ノ根元トナルヘキ大切ノモノナリ

右ヲ簡略ニイヘハ 死生 何國 何年 男女ノ區別
 生レタルキ精神ノ有無 誰ノ子 婚禮ノ有無ノ七件ナリ
 死ト生トチニツニ分ツテ八件トス
 外コ一件アリ刑事ニ於テ施體加辱ノ刑ニ係ルモノハ「エタシビル」ニ
 書キ入ルヘシ前ノ件々ヲ合セテ九件トスヘシ
 「イタリヤ」ニテハ治産ノ禁ヲ受ケタルコトヲ書キ入ルナリ佛ニテハ此
 分欠ケタリ
 ソノ書キ入レテナスニハ
 刑事裁判所ヨリ民生官吏ニ達シ民生官吏ニテ「エタシビル」ヘ書キ入
 ルヘシ
 又有期無期ノ刑ハ書ク方可然入獄以下ハ書クニ及ハス
 佛ニテ死刑ニ處シタルモノハソノ刑死シタルコトハ書セス蓋シソノ

親族ノ耻辱ニナラサル爲メコス
 又ソノ書セサル所以ハ婚姻ノ節子ノ爲メニ耻ヲ包ムト云一説アリ」
 抑「エタシビル」ニ人ノ生死婚姻有無等一般ノ「ナ」ヲ記スル趣意ハ人民
 ノ契約ヲ結フ時等用心ノ爲メニ書記スル「ナ」ナリ
 死刑ニ於テハソノ人ノ終リユヘ更ニ契約ヲ結フ等ノ「ナ」ヲ總テ關
 係モナキユヘ書スルモ用ヲナサスソノ人ノ耻ヲ包ミ書セサル方然
 ルヘシ
 「エタシビル」ノ「ナ」ニ付テハ何レノ國ニモ欠ケアリ「イタリヤ」モ欠ケア
 リ
 日本ニテ之レヲ作ラント欲セハ各國ノ欠ケヲ受ケサル様アリタシ」
 タトヘハ婚姻ノ「ナ」ハ書ケトモ婦トナリタル「ナ」ハ書カスユヘニ何人
 モソノ人ハ未タ人ノ妻ナリト思フナリ

佛ニテモ不都合ヲ生スル「ナ」アリ一婦ニテ兩夫ヲ持「ナ」アリ「エタシビ
 ル」ニ書付テナキユヘ婦ニナリタルヤナキヤヲ知ル能ハス終ニソノ
 婦トナリタル書付ヲ持參セヨト云フ「ナ」ナシ
 又英國人ノ佛ニ歸化スル「ナ」アリソノ歸化シタル時ニ別ニ「エタシビ
 ル」ヲ作り本國ノ「エタシビル」ヘソノ委細ヲ書キ入ル、「ナ」ナシ故ニ歸
 化ノ人民ハ兩國ノ權利ヲ持ツ等ノコトアリ
 此國ノ人トナリタリト云フ「ナ」ハソノ本國ヘハ通達ハセス
 ソノ人ノ歸化シタルトキハ「コンセイエイテター」ノ承諾ヲ以テ勅書
 ナ作り言渡ス「ナ」ナリ故ニソノ欠ケナキヲ要スルニハソノ歸化人ヲ
 編入シタル國ノ民生官吏ヨリソノ原籍ノ官吏ヘソノ趣ヲ文通スル
 ハ不都合ナカルヘシ以上ハ「エタシビル」ノ根元ヲ説キタリ
 以下ハ右「エタシビル」ノ「ナ」ニ付テノ訴訟ハ檢事ヘ告クヘント云フ「ナ」

子説クヘシ
 シノ「エタシビル」ニ關スルコトハ初メヨリ起ルコトアリ又訴訟ノ半ハヨ
 リ起ルコトアリ
 タトヘハ子ノ父母ニ求ムル訴訟即チ人ニ己レノ親ナリト訴フルコ
 ニテ「エタシビル」ニ關スル主タル訴ナリ
 婚姻ノコトニ付テハ我カ夫ナリ我カ婦ナリト訴フルコトハナキコトナレ
 此婚姻破約ノ訴ハ毎ニ之レアリ
 法ニ適セサル婚姻ニ於テ争ノ生シタルトキハ裁判官ニテ婚姻破約
 ナ言渡ス然レヒソノ生レタルトキノ「エタシビル」ニ書入ルコトナシ
 又父母ノ知レサル子ノ父母ヲ尋スルコトニ付キ父母ノ分カリタルト
 キハ裁判上ニテ其子ナリト言渡サレ且子ハソノ言渡ノ書付ヲ所持
 スルマテソノ事ヲ「エタシビル」ヘ書入レス

故ニ僅カニ年月ヲ過キ一方ニテ死去スレハ誰モ知ルコトナク只ソノ
 書付ケアルノミ
 「エタシビル」ニハ何某ノ子ト書テアレヒ後ニ至リアノ子ハ姦通ノ子
 ナリト云ニ訴訟トナリソノ子ノ負トナリタルトキハソノ言渡書ヲ
 ソノ親カ所持スルコトニテ子ノ「エタシビル」ニ書キ入レサルユヘソノ
 「エタシビル」ニハ以前ノ通りソノ人ノ子ニナリ居ルナリ
 右等ハ皆「エタシビル」ノ欠ケナリ
 私生ノ子ヲ見認メタルトキハ「エタシビル」ニ書キ入レルナリ前ニ云
 フ書キ入レサルハ元ヨリ嫡出ノ子ノ親ノ知レサルトキノコトナリ
 右ハ「ホリス」ニ關スルコトニハ無之行政官吏ニテ世話ヲナシテ書キ入
 ルヘキナリ之レヲ書キ入レサレハソノ人一代ノ事蹟分明ナラス
 「エタシビル」ニ關スルコトニ付檢事ニ告ケサルヲ得サルコト左ノ如シ

子ノ親ヲ見認ル事

夫ニテ我カ婦ノ子ヲ我カ子ニアラス姦通ノ子ナリト云フ事

婚姻ヲ破約スル事

此三件ハ首タル訴訟トナル

外ニ二件アリ

風癩トナリ治産ノ禁ヲ受クル事

風癩ノ直リテ民權ヲ復スル事

此等ハ大切ノコナリ

右ハ私益ト公益ト混ス何トナレハ「エタシビル」ハ私益ナレトモ公益ニ

渉ルナリ

後見ノコニ管シタルトハ後見人ノ不勤ニ因テ之レヲ退クル等ノ事

ニ付テノ訴訟ナリ是レヲ此ノ二項ニ出シタレトモ第六項ニ幼者云

々ト有之幼者ノコト云ヘハ後見人ノ事モ含ミアルユヘ此所ヘ出サ
ストモ宜シ

後見人ハ幼年ノ者ニ限ル

佛ノ法律如此不備ナル故ハ此ノ法律ヲ編集セシモノハ當時皆ナ裁
判上實地ニ經歷シタルモノニテ我カ業前ニ依テ作りタルユヘナリ」
千八百四十年ノ頃佛ノ法學校ヨリ名代トシテ「デマンブバラノナト」
出タリソノ節ニ扱ヒタル法律ハ甚タ宜シ從前曖昧タル文意アリテ
説キ兼タルコトヲモ法學ノカラニ因テ充分ニ書キ顯ハシタリ故ニ此
頃出來タル法律ハ今尙ホ稱賛セリ

ソノ後「ナボレオン」三代目ニ「クールドカツサシヨ」ノ長チナシタル
トムロンフト云フ人ノ作りタル「イホテーキ」ノ法律ソノ趣意ハ甚タ
宜シケレトモ其編成疎漏チ免カレス佛ニテ一般遺憾ナリト云フ

前ニ私益ナレモ公益ニ涉ルト説キタルハダトヘハ
 風癪人ナ一般ノ人ト一同ニ置クトキハ如何ナル害ヲナスヤモ知ル
 ヘカラス又ソノ人ヨリ言ヘハ自カラ事ヲ爲シテ如何ナル損ヲナス
 ヤモ亦知ルヘカラス此等ノ類チ云フ

法律ヲ以テ保護スルコト此ノ如シト雖モ時ニヨリ狂院中ニアリナカ
 ラ治産ノ禁ヲ受ケス私ノ財産ヲ勝手ニ支配スルコトナトアリ
 商法上澤山ノ仕入等ニテ一時恍惚トナリタルモノチ直チニ風癪人
 トナシ更ニ金談ヨリソノ證人マテ出來ソレカ爲メ裁判官ニテモ眞
 ノ風癪ト認メ狂院ヘ入ル、コトナト儘之レアリ佛ノ「ポーフィーカン」ト
 云フ一婦人アリ三十歳許リナリソノ人ノ父ノ死シタルトキソノ母
 ニテ嫡男ニ財産ヲ讓リタキ爲メニソノ婦人チ風癪ナリト訴ヘ一時
 ソノ裁判トナリタリ因テソノ婦人控訴シテヨキ代言人チヤトヒ遂

ニ勝チタリ尤モ右婦人ハ少シク風癪ニ似タルコトナトアリシ故ニ前
 件ノ訴ヘニ及ヒタルコトナリ

ソノ婦人ハ始メ各國ヘ旅行シタリ因テ各國ノ語ナトチ覺ヘ膽太ク
 ナリ多分ノ金チモ費ヤシタリ右等ノ廉チ以テ風癪ト申出タルナリ
 「ホアツソナート」モ其婦人ニ逢ヒタリ尤モ時ニ異ナル所アルチ看ル
 ト云フ

第三 裁判所ノ管轄異ナルチ以テソノ裁判所ノ吟味チ受クルコトチ拒
 ム訴訟

ソノ訴訟ノ品ニヨリテ夫々裁判所ノ違ヒアルコトハ過日説キタリ
 ソノ裁判所ノ違ヒタルニ付キ必ラスソノ裁判所ノ裁判チ受クヘシ
 ト云フトキノコト云フ

拒ムト譯シアレモ強情ニ抗拒スルコトニアラスソノ裁判所チ避ル義

ナリソノ時ハ此ノ權限内ニアラスト丁寧ニ云フナリ
ソノ私益ト公益ト關スルト云フハ被告人ノナキ裁判ハ元ヨリナ
キヲナレモ裁判所ハ人民ニテ尊敬ヲ盡クサ、ルヘカラス故ニ裁判
所ノ當不當ヲ論スヘカラサルモノユヘ檢事ヘ告ケ檢事ニテソノ當
否ニ付キ意見ヲ述フ即チ公益ト私益ナリ

此事ニ付キ下ニ正條アリ故ニ贅セス

第四 數ケノ裁判所ノ管轄相觸ル、時其中一箇ノ裁判所ニ定ムヘキ
爲メナシタル訴訟裁判役ニ付キ故障ヲ述フル訴訟裁判役相手方ノ親
族ナルニ付キ他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移サントスル訴訟

原文ニテ言ヘハ裁判官ノ規則ト書イテアリ此譯文ハ直譯ニアラス
意譯ナリ此ノ意ハ裁判所ニツトモ我權内ニアラスト云ヒ又タニツ
トモ我カ權内ナリト云ヒタルトキノコチ云フナリ

裁判所ノ規則ハ第三百六十三條以下ニ之レ有リ

治安裁判所ニツコテ共ニ我カ權内又ハ我カ權外ト云フトキハ縣裁
判所ニテ之レヲ定ム縣裁判所ニテ同様ナル時ハ控訴廳ニテ之レヲ
定ム控訴廳ニテ同様ナルトキハ覆審院ニテ之レヲ定ム併

縣裁判所ニツコテ争フトキハソノ管轄ノ控訴廳ニテ之レヲ定ム併
巴里トホルトトノ如
キハ管轄違故能ハス

控訴廳ノ争ヒノ時ハ他ノ控訴廳ニテ之レヲ定ムルヲ能ハス
トカツサシオンニテ定ムルヨリ外ナシ

タトヘハ被告人巴里ノ裁判所ニ呼出サレタルトキソノ被告人ニテ
權内ニアラスト云フトキハソノ裁判官ニテ直チニ此ノ裁判所ノ權
内ナリト裁判ス若シソノ時「ホルト」ノ裁判所ニテモ同シク我カ權
内ナリト云フトキハ權限ノ争ヒトナルソノ時ハソノ上ノ控訴廳若

シ管轄違フ時ハ大審院ニ於テ之ヲ定ム故ニ管轄違フタル裁判所ニ於テ争フ時ソノ縣邑ノ裁判所ヲ論セス皆之レヲ定ムルハ大審院ナリ
 裁判役ニ付キ故障ヲ述フル訴訟トハ我カ親族ノモノ裁判官ナルトキノコナリ原告モ被告モ云フコアリ親族ノ六級マテハ避クルコナリ
 右ヲ避クルコニ就テハ別ニ法アリ故ニ縷述セス
 裁判官相手方ノ云々ハ親族一人ナルトキハソノ裁判官ノ代ハルノ
 ミ二人以上ノ親族アルトキハソノ訴訟ヲ他ノ裁判所へ移スナリ
 裁判所中ノ一局ニ二人ノ親族アルト云フコアラヌ一ノ裁判所中ニ二人アルトキノコナリ云フナリ
 若シ控訴裁判所第一局ニ出ツルコソノ局ニ親族一人アリト云フコヲ訴フレハ他ノ裁判官ヲ以テ代ラシム

之レニ反シソノ一局ニハ親族一人アリ他ノ局ニ二人アル時故障申立ツレハソノ控訴廳ニテ訴訟ハ取上ケス
 タトヘハ巴里ニテ親族アルタメ訴訟ノ出來サルトキハソノ近傍三ヶ所ノ内最モ近キ控訴廳へ移ス
 故障申述フル時縣裁判所コテハ親族二人以上控訴廳ニテハ親族三人以上アレハ其所ニテ訴訟ハ取上ス
 之レヲ願ヒ出ルニハ原被双方書付ヲ以テソノ訴事ヲ取扱フ間ハヨシ既ニ裁判所ニ出テ争ヲ初メントスルトキニハ遅シ
 右ノ場合ニ於テ原被告人共ニ裁判所へ出争フマテ故障ヲ述ヘサルトキハ裁判スルトモ宜シ又親族アルヲ知リテモソノ訴ヲナサハルトキハ宜シ
 右ハ義務ニハアラス只法律ニ於テ夫レ丈ケノ自由ヲ與ヘタルモノ

ナリ

使吏ノ云々トハ同シ様ナレトモ親族ノ爲メニト書テアリ自カラ別アリ

裁判官ニ在ツテハ親族ノ爲メニ私シハナサ、ルモノト信スルナリ
使吏ハ人物モ劣リ其弊モ自カラアル故ニ親族ノ爲メニスル云々ト別段禁シタルナリ

右ニ注意セサルヘカラサルコトアリ使吏原告人ノ爲メニ呼出狀ヲ送達スルトキ被告人ニテ其親族ノ爲メナリト云ハサレハソノ効ノナキコトヲ掩テ仕舞フナリ之レ効ナキ呼出狀ノ効アルモノニナルヲ云フ

右ノ事ハ第七十三條ニ詳カナリ使吏ニテ親族ノ爲メニ送達シタルトキハ訴訟トナル前ニ言ハサルヘカラス裁判官ニ親族アルトキハ裁判所へ出テ言ヲ發セサル前マテハ申立テ若シカラスソノ時間

ハ呼出狀ニ付テノ時間ヨリハ甚ダ長キモノナリ
使吏ノ親族ノ爲メニナシタルトキハ其呼出狀ヲ送り直ス
裁判官ノ親族ナルニ付キ他へ移ストキハ訴訟ヲ仕直スコトナシ
ソノ訴訟ヲ他へ移ストキハ請取リタル丈ケノ書キ付ケテ他ノ裁判官へ引渡スナリソノ請取リタル裁判官ハ八日内ニ何程ノ書類アリトモ盡ク關セサルヘカラス
右等ノコトモアルユヘ佛ニテモ身方ニナルトナラサルトノ事ハ能ク防キテアルナリ
之レニモ檢事ノ立入ルコトハソノ裁判所ニテ請取リテモ心付カサルコトアリ裁判所ニテ人ノ疑ヲ受ケテハナラサルユヘ檢事ニテ意見ヲ述フルコトナリ

第五 裁判役不正ノ裁判ヲナシタルニ因リ其裁判ヲ取消サントスル

訴訟

此項ノ譯文ハ原書ノ意ヲ敷衍シテ書キタルモノナリ原文ハソノ人ニ荷擔シタルコトアリ

前項ノ意ハ裁判官ニテ過チチナスヤノ疑アルノミ此ノ項コテハ既ニ過チチナシタルコトナリ

此項ハ既ニ裁判チナシタル後ノコトナリ

親族チ云フニアラス一般人ニカ、リ偏頗ノ裁判チナシタルニ付テノコトナリ第三百五條ニ詳カナリ其類總テ四件アリ

○計略チ用ユ ○書類チカクス

○賄賂チ取ル ○ソノ人ノ爲メニ裁判スルコト拒ム之レ等チ荷

擔スルト云フコトナリ

刑事ハ此項ニアタルコト多シ

重キチ輕クスルコト又ハ不吟味ノコト等アルナリ

タトヘハソノ荷擔スル裁判官一人ナルトキハソノ裁判所ヘ訴フ二人以上ナルトキハ一等上ノ裁判所ヘ訴フ

若シ治安裁判所ナレハ縣裁判所ヘ訴フ縣裁判所ニテ二人以上ナレハ控訴廳ヘ訴フ

縣裁判所ニテ一人ナルトキハ只ソノ裁判官チ換ヘタルノミニテ訴チ聽ク

裁判所ニテハソノ荷擔ノ有無チ取調ヘ彌荷擔ニ無相違トキハソノ裁判所ヨリ書付チ渡スソノ書付ケチ以テ控訴廳ヘ出シ控訴廳ニテソノ當否チ判ス

若シソノモノニ於テ申立ノ實ナラサルトキハソノ裁判チ受ケ更ニ三百フランクノ罰チ受ク

右ハ控訴トシテ之レヲ取上ルニアラス元ノ裁判ノ當否ヲ判スルタ
メナリ

控訴廳ニテ此事起レハ覆審院ニテ此事ヲナス

以前ハ臨時裁判所へ出ス近來ハ説キタル通りナリ

區裁判所ニ訴ヘタルモノ不服ニテ府縣裁判所へ上告シ終審トナリ

タルトキ此事アルモ矢張り控訴廳へ持出スナリ

タトヘハ千五百〔フランク〕以下ノ裁判ヲ乞ヒ終審トナルツノ時ニ縣

裁判官ニ此事アリタルトキハ即チ控訴廳へ出ス

縣裁判所ニ於テ終審ノ裁判ニ付キ裁判官ノ偏頗アルト訴ヘタルト

キツノ裁判所ニテ取調彌ソノ事ノアリタルトキハ書付ヲ以テ彌ア

リトツノ訴人へ達スソコテ控訴廳へ出ツ控訴廳ニテ取調へ萬一ソ

ノ裁判ノ宜シカラサルトキハソノ事ヲ達ス

原被ノ内一方ノ疑心アルモノヨリソノ上ノ裁判所へ出ス右ヲ檢事

ニテ聞カサルヲ得ス即チ公益ト私益ト相關涉スルモノナレハナリ

「ボアツツナード」自カラ考フルニ終審ノ裁判ナラハ控訴廳へ出ツル

「ハ前ニ説キタル通りナリ始審ノ裁判ニ於テハ控訴スルノ道及ヒ

荷擔ヲ訴フルノ道モアリ何レヲ先ニスヘキヤ法律上未ダソノ取り

極メ之レナシ

ソノ時ニハ控訴ノ出來ルコトナラハ控訴スル方ヨロシ何ントナレ

ハ萬一裁判官ノ荷擔シタルコトナキトキハ自カラハ罰ヲ受ケ裁判

官ニ對シテハ償金ヲ出シソノ上裁判ノ法ニ適シタルトキハ何ノ役

ニモダ、ス

第八十三條

過日説キタル中ニ非常ノ道ヲ以テ上告スルコト通常ノ道ヲ以テ上告スルコト相混スルコトヲ説カン

一体訴訟ニ規則アリ又故障申立テノ規則アリテ彼ト此トアルトキハ此方ヨリ訴フヘキナリ

タトヘハ故障申立ノ道ト上告ノ道トニツアルトキハ故障ヲ先キニシ上告ヲ後ニスルナリツノ中ニモ此レハ大審院ヘ訴フルコト彼レハ「レケートシヒル」ヘ訴フルコト區別アリ

過日説キタル裁判官ニテ荷擔ノ裁判シタルニ付訴出ルコトニ於テハ別段ノ規則ナシ

今縣裁判所ニテ千五百フランク以上ノ始審ヲナスニ不服ナレハ上等ノ裁判所ニ控訴ヲナシテ裁判ヲ受ケ猶不服ナルトキハ大審院ヘ

上告ス故ニ縣裁判官ニテ賄賂ヲ取り荷擔ノ裁判ヲ爲シタルトキハ控訴ノ道モアリ又大審院ヘ上告ノ道モアリ

ツノ時ハ先ツ控訴ノ道ヲ踏ミ登リ控訴廳ヘ出ツ之レ通常ノ道ナリ然ルニ控訴シタルモノ勝チタリモ前ノ裁判官ノ賄賂云々ノコトハ消滅ス

右ニ反シ控訴ニテ負ケタリツノトキハ賄賂ヲ取りタリトモ前キノ裁判ヲ怨ムコト能ハス

若シツノ控訴ハ止メニシテ賄賂ヲ取りタル裁判官ヲ相手取リツノ枉法ノコトヲ訴フル時ハ之レ非常ノ道ニテ「レケートシヒル」ヘ訴フツノ時ハ控訴スル能ハス

縣裁判所ニテ枉法ノモノ一人ナレハツノ人ヲ相手取リ二人以上ナレハ裁判所ヲ相手取リ控訴廳ノ「レケートシヒル」ヘ訴フツノ時ハ控

訴ノ道ハ斷ユ

右ノ通り通常非常ノ兩道アルトキハ必ラス控訴ヲ先ニナスヘシ何トナレハ枉法ヲ訴ヘテ萬一負ケルトキハ罰金ヲ出シ且裁判官ヘ償金ヲ出スコトナル甚ダ危険ノコナリ

故ニ控訴ノ方ヲ先ニスルナリ

枉法アル場合ニ於テハタトヘソノ枉ラレタル人ヨリ訴ヘストモ檢事ノ耳目アリ裁判官ノ罪ハ何レヨリカ發覺シテ譴責トナルコナレハ我ニ於テ遺恨ナカルヘシ

タトヘハ縣裁判所ニテ終審ヲナシタル訴ヲ控訴廳ヘ訴ヘタルトキ裁判官ノ枉法アラハ大審院ヘ上告ス

ソノ時取消ノ道ト枉法ヲ訴フルトノ兩道アリソノトキハ必ラス取消チ前キコナスナリ

大審院ヘ訴ヘタルトキ大審院ニテソノ取消ノ上告ハ立タ、スト申渡サレタルトキハ前控訴廳ノ裁判全ク善キモノトナル

故ニソノ時ハ手ヲ替ヘテ裁判官ノ枉法ヲ訴フ之レ非常ノ道ナリ

大審院ニテ裁判ヲコハシタルトキハ縣裁判所ノ裁判ハ消ユルナリ

右ニ反シテ大審院ニテ取揚ケサルトキハ縣裁判所ノ裁判ハ役ニ立ツナリ

縣裁判所ヨリ控訴廳ヘ出ツルニ於テモ同前ノコトニテ大審院ニテソノ上告ヲ取り揚ケタルトキハ控訴廳ノ裁判ハコハサレタルモノユヘ枉法ヲ訴フルコト能ハス

大審院ニテ上告ヲ取揚ケサルトキハ縣裁判所及ヒ控訴廳ノ裁判トモ役ニ立ツトハ元ト大審院ハ裁判ヲコハス許リコト裁判ヲナス所ニアラス故ニ元トノ裁判ハ役ニ立居ルナリ

若シ大審院ニテソノ上告ヲコハシタルトキハ他ノ控訴廳へ移シテ
裁判セシム

裁判官枉法ノコトハ僅ニアルコトナリ萬一之レアル時ト雖モ枉法ヲ訴
フルハ危キ事ナルニ因テ必ラス先ツ上告ノ道ヨリナスナリ

故ニ控訴上告シテ意ノ如ク勝チタルトキハソレ切ニテ濟ムナリソ
ノ時ハ裁判官枉法ノ事ハ訴フルコト得ス

裁判官枉法ノコトハ刑事ニ屬スルコトニテ必ラス檢事ヨリ告クルナリ

「カントン」區ハ始審ニテ「アロンセスマン」縣ノ終審トナリタルトキハ
控訴ハ出來サルナリソノ時ハ大審院へ上告スルナリ

「カツサシオン」トハ裁判ヲコハス所ト云フコトナリ但シ訴訟ヲ下ケル
コトモアルニ付キ下ケルノ義モアルヘキナレモコハスノ字義許リナ
リ「クール」ハ上ヘノ裁判所ト云フ義ナリ

若シ欠席裁判ニ逢ヒタルトキ故障ヲ申立ル道ト枉法ヲ訴フル道ト
二ツアリ

故障ノ方ハ間違ヒテ後ノ災ヒナシ枉法ヲ訴ヘテ萬一誤リタルトキ
ハ前ニ述タル通り大ナル禍アリ

第六 夫ノ許諾ヲ得スシテ爲シタル婦ノ訴訟又ハ夫ノ許諾アリト雖
モソノ婦ノ嫁資分括ノ契約ニテ婚姻ヲ結ヒタルモソノ婦ノ嫁資ニ管
シタル訴訟幼者ノ訴訟其他原告又ハ被告ノ一方管財人ノ補佐ヲ受ク
ル訴訟

能力ナキモノニ付テ訴訟ノ起リタルトキハ檢事ニテソノ人ノ爲メ
ニ防キ且保護セサルヘカラス

此項ニ付テ云フトキハ公益ノナキト云フモ可ナリ
併シ弱チ助クルハ公益ナルニハ檢事之レヲ助クル爲メニ聞クナリ

○婚姻ヲナセシ婦○幼年ノ後見ヲ免カレサルモノ○或ハ後見ヲ免
レタルモノ

○治産ノ禁ヲ受ケ又精神ナキモノ

○瘋癲ニテ狂院ニ入ルモノ 治産ノ禁ハ受ス

「フロジツク」ト云テ精神ノ弱キ浪費者右ハ裁判所ヨリ管財人ヲ附ケ
置クナリ

此五ツハ能力ナキモノナリ

婚姻ヲナシタル婦ニテ夫ノ許シテ受ケタルモノハ檢事ニ告ケスト

雖モ夫ニテ裁判所へ出ツルヲ許サ、ルトキ婦ニテ訴訟ヲナスト

キハ必ラス檢事ニテ聞ク

夫ノ許シテ受ケタリトモ檢事知ラサルヲ得サルヲ一ツアリ

財産持寄りノ婚姻契約アル時ナリソノ契約ニ於テハソノ財産利息

ハ遺ヒテモ苦シカラスト雖モ元トノ財産ハ勝手ニ動カスヲ能ハス

右ニ付テノ訴訟ハ檢事聞カサルヲ得ス

幼年ハ後見ヲ免カルトモ免カレサルトモ親族會議ノ許シテ受ケサ

レハ訴訟ヲナスコトヲ得ス

後見ヲ免カレタルモノハ契約ヲナスヲ得ルト雖モ訴訟ニ於テハ許

シナケレハ之レヲ爲スヲ得ス原書ニハソノ他ノ字ヲ一般ニ作ル

總テ管財人ノ補佐ヲ受ケタルモノ、訴訟ハ檢事ニテ聞カサルヲ得

サル文意ナリ

○治産ノ禁ヲ受ケタルモノ

○狂院ニ入ルモノ

○浪費者フロジツク

此三ツハ律上ニ別段書セサルト雖モ管財人ノ補佐ヲ受クト書テア

ルユへ此中ニ籠リ居ルナリ
 婚セシ婦ハ弱質ノタメニ民權ナシト云フニアラス嫁シテハ夫ニ從
 フノ道ヨリシテ能力ナキモノト一般トス
 ソノ民權ハアリト雖モ夫ノ許シアラサレハ自儘ニ權ヲ行フヲ得
 ス併シ夫ニテ拒ミタル時ハ裁判所ニテ助ケルユへ差支ハ無之
 第七 失踪ノ思度ヲ受ケタル者ニ管シタル訴訟
 又檢事ハソノ他ノ訴訟ト雖モ己レノ干涉スヘキヲ必要ナリト思量
 スル時ハ其訴訟ノ報告ヲ得ント求ムヘシ又裁判所ヨリソノ職務ヲ以
 テ檢事ニ訴訟ヲ報告スヘキノ言渡ヲナスヲ得ヘシ
 佛ニテ失踪ト云フハ旅行中等ヲ云フニアラス何レノ國ニ居ルヤ又
 ハ死生モ分明ナラサルモノ之レヲ失踪ト云フナリ
 失踪ニテ歳ヲ經ルニ從ツテ此人ハ死シタルニテモアルヘシト思フ

ナリ

右ニ付テ期限アリ

五年マテハ失踪ト思度スル者ト云フ五年ヲ過クレハ失踪者ト云フ
 決シテ死シタル證ナキニ死セリト云フヲ得ス
 タトヒ死セストモ財産ノ取扱アルニ付キソノ處分ノ規則ヲ立ツル
 ナリ

若シ人ノ代理人ヲ置カスシテ他行シタル時失踪ト思フトキハソノ
 財産ヲソノマ、ニ置クヲ能ハス依テソノ關係ノ者ヨリ訴へ出レハ
 縣裁判所ヨリ管財人ヲ立ツルナリ

失踪ト思フ時ハ債主等ヨリ訴へ出レハ裁判所ニテ取調ヘノ上失踪
 ト思度スル者ト爲ス

ソノ失踪ノ思度ヲ受ケシモノ

諸會計又ハ會社ノ分配又ハ相續ノ分配及ヒソノ惣會計會社ノ惣會計等ニ付テハ公證人ニテ立會代理ヲ爲スナリ
 以上四ヶ條ノコトニ付テハ目錄等ヲ作ラサルヘカラス
 若シ住所ノ裁判官權外ノ地ニ不動産アルトキハソノ裁判所ニテ行届サルユヘソノ不動産アル地ノ裁判所ヘ言送り代理人ヲ立テソノ相當ノ處置ヲ頼ミ遣ハスナリ
 失踪者自ラ代理ヲ置タルトキハ十年間代理ヲナサシメ裁判所ヨリ代理ヲ置キタルトキハ五年間代理ヲ爲サシム
 若シソノ代理物代理ナルキハ裁判所ヨリ手ヲ付ケスモシ幾部分ノ代理ナルトキハ右ヲ惣代理ニナストモ別人ヲ加ヘテ代理セシムルトモ裁判所ニテ申付ケルナリ
 代理アルトキハ十年ノ後一ヶ年ノ間穿鑿ヲナシソノ一ヶ年ノ後跡

踪ノ分ラサルトキハ失踪者ト言渡スナリ
 代理人ナキトキハ五ヶ年ノ内末ノ一ヶ年ヲ穿鑿期限トシ合セテ五ヶ年ヲ過クレハ失踪者ト言渡スナリ
 一ヶ年間穿鑿セヨト言渡ス時ハ張出シヲ爲ス太政官日誌ヘモ載セ裁判所ノ新聞誌ニモ出ス右ニテ一向知レサル時ハ失踪者ト爲ス
 此言渡シハ相續人債主ソノ他關係ノモノヨリ訴ヘ出ルニアラサレハ言渡スコトナシ
 失踪ノ思度ト穿鑿トノ言渡シハ失踪者ノ子孫又ソノ債主等ノ訴ニヨリ之レヲ言渡ス
 彌失踪者ト言渡ストキハ必ラス相續人ノ訴ニヨルナリ
 初メ失踪ト思度スルニ付キ代理ヲ申立ルトキハ必ス檢事ヨリ申立ルナリ公益ノ爲メナリ後彌失踪者ト言渡ス時ハ檢事立入ラス

失踪者ト定マリタルトキハソノ弟姪等ニテ相続人トナリテ假リニソノ相続ヲナス其堺ハ彌失踪トナリタル日ヨリ假リニ相続シタルト見做スナリソノ節ハ證人ヲ立ツ何トナレハソノモノ歸リ來ルトキハソノ財産ヲ返サ、ルヲ得サレハナリ

ソノ財産ヲ返ス期限ハソノ失踪ノ言渡ヲ受ケタル日ヨリ三十年ニ至ルナリ

代理アレハ前ノ十年ヲ合セテ四十一年代理ナケレハ前五年ヲ合セテ三十五年ヲ過クヘソソノ失踪者老人ニテ百歳ノトキニ至レハ三十年ヲ待タス

三十年ヲ過クルカ又ハソノ失踪人ノ齡ヲ計算シテ百歳ニモ過クルトキハ假リノ相続人眞ノ相続人眞ノ相續ヲナシ度キ旨ヲ訴フソノ時ハ證人モナキナリ

萬一眞ノ相続ヲナシタル後ニ其モノ歸リ來ルトキハ相続人不平ナリトモ財産ヲ返サ、ルヲ得ス

尤モ盡クハ返スニ及ハス費用シタルモノ賣リタルモノハソノマ、ニテ返サス現存スル物件ノミソノマ、返スナリ

費用スル分ハ返スニ及ハスト云ヘトモ若シ失踪者ノ不動産等賣リタル金ニテ買入レシ物件及ヒソノ利益等アレハ之レヲ返サ、ルヲ得ス

其婦アル時ハ財産ノ約束ニヨリテソレニ違ヒアリト雖モ一々説明セント欲セハ婚姻ノ契約ヲ盡ク説カサルヲ得ス故ニ暫ラク置ク

失踪ノコトニ付テノ立方ニ甚タ不條理ナルコトアリソノ婦タルモノハ百年ヲ過クルトモ再婚スルコト能ハス

佛ニテ以前離婚ヲ許シタルトキト雖モ失踪ヲ以テ離婚ヲ爲スコト

許サス

今日ハ離婚ノ法ヲ廢シタルニ付キ驚クニ及ハサレトモ人情ヨリ言
 ヘハ五ケ年ヲ過キタラハ再婚ヲ許シテモ可ナルニ似タリ
 失踪者ノ子アレハソノ養育ハ法律中ソレ々々ノケ條アリテ世話ノ
 爲シ方アリ

第一ノ期限ノ時代理ヲ付ケルトキハ檢事即チ原告人トナル
 ソノ他ノ場合ニテハ檢事ニテ原告人トハナラスト雖モ必ラス陪席
 シテソレ々々ノ保護ヲナス何ノ爲メニ陪席シテ意見ヲ述フルト云
 フニ孤獨無依モノト思フユヘ保護セサルヘカラス之レ檢事ノ職務
 ナリ義務ナリ

五年ト起算スルハ失踪者其地ヲ去リタル日ヨリ起算ス
 去リタル後二ケ年ヲ過キテ如シ失踪ト思フ時ハ後三ケ年ニテ五ケ

年トナル

代理ヲ置テ去リタルモノハ穿鑿中一ケ年ヲ前ノ十ケ年ノ外ニ算シ
 テ十一ケ年トナル代理ヲ置カスシテ去リタル者ハ五ケ年中ニ穿鑿
 ノ一ケ年モアルナリ

第八十三條第一項ヨリ第七項マテノ一ハ必ラス檢事ニ通スヘキト
 ナリ萬一檢事ニ通セスシテ裁判ヲナシタル時ハ「レケートシビル」ト
 云フ非常ノ道ヲ以テ訴ヲ聽ク所ロヘ出ツルナリ

此ノ「レケートシビル」ハ何レノ裁判所ニモ之レアリ
 萬一檢事陪席ナク又ハ陪席シテ意見ヲ述ヘサル時裁判ヲナスニ能
 カナキモノ、勝チタル時一方ノ能力アルモノニテ「レケートシビル」
 へ出ツルヲ能ハス

能力ナキモノ、負ケタルトキハ必ラス「レケートシビル」へ出ツルナ

リ
 既ニ述フル如ク本條ノ一項ヨリ七項マテハ必ラス檢事ニ通スヘシ
 ソノ他ノコトハ裁判官ニテ通セント思フトキハ之レヲ通シ檢事ニテ
 聞カント思フ時ハ求メテ之レヲ聞ク裁判官ト檢事トノ適宜ナリ故
 ニ其場合ニ於テ原被告人「レケートシビル」ヘ出ツルコトヲ得ス
 第八十四條 檢事及ヒ其代役ノ共ニ失踪トナリ又ハ故障アル時ハ裁
 判役中ノ一人又ハソノ代役中ノ一人之レニ代ルヘシ
 檢事及ヒソノ代役ノ共ニ失踪ト書キタルハ前ニ説ク失踪ノ如キニ
 ハアラスソノ場ニ居ラサルトキナリ故障ト同シ
 旅行或ハ病氣等ノコト
 若シ檢事及ヒ代役ノ居ラサルトキハ裁判官ニテ之レニ代ルナリ此
 條別ニ説クコトナシ

第十五號 明治七年六月二十日

第五章 吟味ノ事吟味ノ公ケナル事吟味取締ノ規則

第八十五條 原告被告ハ其代書師ノ助ヲ得テ自カラ辨論スルコトヲ得
 ヘシ然レ原告人ハ被告ノ心情ニ因リ又ハ其者事故ヲ經サルニ因リ相
 當ノ禮義ヲ以テ其趣意ヲ述フルコト能ハス又ハ裁判役ノ了知シ得可キ
 様ニ其意ヲ明白ニ述フルコト能ハサルヲ裁判所ニテ知リタルキハ自カ
 ラ辨論スルヲ禁スルコトヲ得ヘシ

此條ハ代書師ノ助ケハ原被トモ必ラス頼マサルヘカラス自カラソ
 ノ訴訟ヲ拒クコト能ハサルキハ代言人ヲタノムヘキコトヲ云フ
 相當ノ禮義トハ怒リニ堪兼テ罵詈スル等ヲ云フ無禮ト云フ字ナリ
 心情トハ怒氣ヲ含ムコトナリ

事故ヲ經サルトハ場慣レサルヲナリ
自カラ辨論スルヲ禁スル上ニハ代言人ヲ頼マサルヲ得サルナリ
小サキ町(小サキトハ繁昌ナラサルト云フナリ)ノ裁判所ニ至リテハ
代書人ニテ代言人ノ代リヲナス何トナレハ代言人ノ局トテハ別ニ
無ケレハナリ

此所ニ一ツノ注意セサルヘカラサルハ被告人ノミ自カラ拒クニア
ラス原告人ニテモ自カラ拒クテ勝手次第ナリ

「カント」ニ在ル治安裁判所ニテモ代言人ヲ出シテ拒カシムルヲ妨
ケナシ

「アルロンダスマン」ニテモ小村ナレハ代書師ヲ代言人トナスニ苦シ
カラス

府縣裁判所ニテハ自カラ拒クコト能ハサルモノハ代言人ヲ出スモ

苦シカラス治安裁判所ニテ自カラ拒クヲ得サルトキハ親族
朋友ヲ以テ代理人トナスヲ得ル
刑事ニ於テハ親族朋友ニテモ可ナリ民事ナレハ必ラス代書師代言
人ニカキルナリ

本條中文意ノ照應スル所ロアリ、心情ニヨリ、相當ノ禮義ヲ云々、事故
ヲ經サルニ因リ、ソノ趣意ヲ述フルヲ能ハス、之レナリ

第八十六條 雙方共ニ相談ノ爲メノミタリニ在職ノ裁判役檢事長代
言人長 代理人長トハ檢事長副員ニテ 檢事并ニ此等ノ副員ヲシテタト
ヘ掛リ以外ノ裁判所ト雖モ口上又ハ書面ヲ以テ己レノ訴訟ヲ助ケシ
ムルヲ任スヘカラス然レモ此等ノ官吏并ニ其副員ハ何レノ裁判所
ニ於テモ己レノ身ニ管シタル訴訟宗系ノ血屬又姻屬ノ親ニ管シタル
訴訟ソノ後見ヲ爲ス幼者ニ管シタル訴訟ヲ爲シテ自ラ辨論スルヲ

得へシ

裁判所吟味中ニ書付テ以テ旨意ヲ述フルモ可ナリ之レヲ書付ケノ
 相談ト云フ之レハ雙方ニテ調印シテ出シテモ可ナリ法律家ノ調印
 ニテモ可ナリ
 此書付ケハ雙方辨論ノ前ニテモ央ニテモ辨論ノ後ニテモ可ナリ但
 裁判言渡ノ前ニアラサレハ能ハス
 右ノ書付ケニテソノ訴訟ノ大略ハ分明ニナルナリ
 此書付ケノコトハ此章ノ大意ヲ撮シテ説キシナリ
 此條ニ在職ト書キタルハ右ニ反シタル裁判官ノ名ノミアリテ非職
 ナル者アレハナリ休職中在職ノ官吏ニ此コト禁スルハ私ヲ防ク
 爲メナリ
 裁判官ハ己ノ身ニ管シタル訴訟以下記載スル所ロノ訴訟ニ於テ

辨論スルコトヲ得ルト雖ヒソノキハ即チ訴訟人代理人ナリ裁判官ニ
 アラス
 ソノ節ニ至リソノ裁判官自ラ裁判ヲナスト云フトキハソノ訴訟ハ
 故障ヲ述ヘテ他ノ裁判所へ移スコトヲ得可シ如シソノ裁判官ニテ此
 訴訟ハ己レ並ニ親族ノ訴訟ナル故我ハ關セスト云フトキハソノ原
 告人ニテ故障ヲ述フルコトヲ得ス然レヒ裁判官二人以上ソノ關係
 ノモノアルトキハ原告被告ノ内一方ノ願ニヨリ他ニ裁判ヲ移スナ
 リ

第八十七條 雙方ノ辨論ハ別段法律ニテ隱密ニ爲ス可キコト定メタ
 ル場合ノ外之ヲ公ケニ爲スヘシ○然レヒ公ケニ辨論ヲ爲ストキハ甚
 シキ耻辱又ハ不都合ヲ生スヘキニ於テハ隱密ニ辨論スヘキコト裁判
 所ヨリ言渡スコトヲ得ヘシ然レヒソノ言渡ヲ爲サントスルニハ裁判役

等評議ヲ爲シソノ評議ノ旨ヲ控訴院ノ檢事長ニ告知スヘシ又控訴院
 ニ爲シタル訴訟ノ片ハ之ヲ裁判事務宰相ニ告知スヘシ
 風俗ニ關スルコトナレハ隱密ニ爲スナリ
 コノ條ハ同事ヲ反復シテ言ヒタルモノナリ
 隱密ニナスヘキ種類ヲ定メント欲スルハカ、ル善キ風俗ニ反スル
 コトハ總テ此條ニ入ル
 必ラス男女ノコノミニアラス
 然レモ佛ニテ風俗ニ關スルト云ヘハ多クハ男女犯姦等ニ在ルナリ
 右ノ場合ニ於テハ原被告人並ニ代書師トヘ一般ニ言渡シ傍聽人ハ
 總テ追ヒ拂フ但シ代言人ハ殘スナリ又ハ樂ミノ爲メ必ラス殘ル
 不都合トハ刑事ニ多ク關スルコトナリタトヘハ毒殺ノ事アル片衆人
 聞キ居ルトキハソノ毒藥ヲ知り得ル等ヨリ害ヲ醸スコトアリ

不都合トハ通語ヲ以テ書タルモノナリソノ毒藥等ノ世間ヘヒロマ
 ル等ヲ防クタメナリ
 事ニ依リ風俗ニ關スルヨリ不都合ノコトニ涉ルユヘテ以テ裁判官ニ
 テ隱密ニナスコトアリ
 タトヘハ人アリ墮胎ヲナスコトアリ手術藥料等ヲ以テ之レヲ爲ス此
 等ハ風俗ニ關スルコトナレトモ亦タ餘人ノソノ法方ニ倣フコト恐ル
 ヲナリ重モニ不都合ニカ、ルコト多シ
 一體裁判ハ公ケニ爲サ、ルヘカラサルモノナリ然ルテ隱密ニナス
 之レ變体ナリ故ニ之レヲ檢事長又ハ裁判事務宰相ニ告知スルナリ
 縣裁判所ヘ此訴訟ヲ爲ストキハ檢事ヨリ檢事長ニ告知スルナリ
 第八十八條 吟味ノ席ニ出ツル者ハ皆帽ヲ脱シ裁判所ヲ敬禮シテ靜
 默シ且總テ裁判所ノ上席人ヨリ喧噪ヲ防クヘキ爲メ言渡シタル諸事

ハ直ニ之レヲ細密ニ循守スヘシ
裁判所以外ノ地ニテ裁判役又ハ檢事ノ職務ヲ行フ場所ニ於テモ亦此
規則ヲ通シ用フヘシ

細密トハ正シク循守ス可シト言渡サレタル事ヲソノマヽニ守ル可
シト云フマテノ意ナリ
帽ヲ脱スルノミニテモナラス敬禮ヲスルノミニテモナラス静默ニ
スルナリソノ他偃臥又ハ足ヲ出ス等ノコトアルハ裁判官ニテ使吏
ニ命シ退出サシム使吏ハ今ハ止メタリ追フコトヲヨフマシト云フコ
ヲ得ス直チニ命ヲ奉スヘシ
後項ノコトハトキ々々裁判官ニテ損害マタハ死傷等ヲ檢スルタメ
ニ出掛ケルコトアリソノトキノコトヲ言フソノキモ同様敬禮ヲ盡ス
ヘシ

第八十九條 原告被告ノ互ニ辨論スルキ又ハ裁判役及ヒ檢察官ノ言
詞ヲ述フルトキマタハ裁判所ノ上席人掛リ裁判役及ヒ檢事問糺譴責
命令ヲ爲ストキ又ハ裁判役ノ言渡ヲナスキニ當リ妄ニ言語ヲ發シ又
ハ賞賛及ヒ誹謗ヲ爲シ又ハ如何ナル方法ヲ問ハス喧噪スルモノ使吏
ノ譴責ヲ受ケ猶止メサルキハ吟味ノ席ヲ退クヘキコト命シモソノ
命ニ從ハサルキハ之レヲ捕ヘテ直チニ廿四時間裁判所附屬ノ獄舎ニ
繋クヘシタヽシ獄舎ニナイテハ吟味ノ調書ニ記シタル裁判所上席人
ノ命令書ヲ視タル上ソノ犯人ヲ受取ルヘシ
來リ聽クモノタトモ貴人ニテモ賞賛誹謗等ヲナストキハ此條ニ言
フ如ク裁判官ノ命ヲ待タス使吏ヨリ譴責ヲナシ猶止メサレハ云々
スルナリ
調書ハ即席ニテ書クナリ